

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
現代の国語	2単位	1年次	前期	現国002-901	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 自己を見つめる	「こそめスープ」:筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 「ルリボンカミキリの青」:筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	6月5日	8月28日
2	2 他者に出会う	「未来をつくる想像力」:情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 「水の東西」:「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める	6月5日	8月28日
3	4 視野を広げる	「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」:身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 「無彩色の色」:色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 「ハサミ」:ハサミに関する筆者の体験について書かれた文章を読み、自分のものの見方を検討する。	6月5日	8月28日
4	5 社会と関わる	「鍋洗いの日々」:自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 「森で染める人」:自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 「動きを引き出す言葉の力」:コーチングにおける言葉の役割を踏まえ、仕事と言葉の関わりについて考える。	7月31日	8月28日
5	7 世界とつながる	「美しさの発見」:「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 「りんごのほっぺ」:出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。 「人生という旅の豊かな人間関係」:具体例から筆者の主張やタンザニアの人々の価値観を読み取り、自分の体験や考えと比較する。	7月31日	8月28日
6	8 未来に目を向ける	「天動説はなぜ『正しかった』か?」:タイトルや具体例に注意して、科学についての筆者の考えを読み取る。 「真の自立とは」:「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(月)~16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	異なる種類の文章を読み比べる:複数の文章を読み比べ、自分の考えを深める。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回~第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 全体のボリューム、難易度ともに大きな問題はないでしょう。ここで丁寧に読解するための技能を身につけましょう。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
言語文化	2単位	1年次	後期	言文002-901	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	現代文編 1 随筆、 2 小説1	「さくらさくらさくら」:引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 「心の自由」:「旅」と「物語」の共通性について理解し、どのようなときに「心の自由」を感じるのか考える。 「とんかつ」:会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。 「オレンジの実る中庭」:場面や人物の設定における特徴を捉え、作中の「オレンジ」が持つ意味について考える。	11月20日	2月5日
2	現代文編 3 詩歌、 5 小説3	「柳あをめる」:短歌の特徴と表現効果を理解する。 「雪の深さを」:俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 「冬が来た」:比喩とリフレインの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。 「少年の日」:リズムや形式に注意して詩を読み味わい、作者の物事に対する感じ方について考える。 「I was born」:散文詩を読み、蜉蝣(かげろう)のイメージに託された生命への思いを深く味わう。 「夢十夜」:表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。 「デューク」:主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。	11月20日	2月5日
3	古文編 1 古文入門、 2 随筆	「古文に親しむ」:それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。 「児のそら寝」:歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 「検非違使忠明」:文語の品詞について理解し、登場人物の行動や場面の描写を読み取る。 「用光と白波」:文語の品詞について理解し、登場人物の心情を読み取る。 「絵仏師良秀」:文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る。 『徒然草』:随筆に表れた作者の考えを叙述を基に捉える。	11月20日	2月5日
4	古文編 2 随筆、 3 詩歌、 4 物語 5 紀行	『枕草子』:作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 「折々の歌」:詩歌に表れたものの見方、考え方を読み取る。 『伊勢物語』:歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 「木曾の最期」:軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 『奥の細道』:構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	1月22日	2月5日
5	漢文編 1 漢文入門 2 漢詩	「訓読の基礎」:漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 「故事成語」:漢文の特色を知り、訓読の規則を理解する。 「絶句と律詩」:漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	1月22日	2月5日
6	漢文編 3 論語、 4 史話	「論語」:孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。 「史話」:話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
(4) 単位認定試験	実施形態		
	「羅生門」:古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。読み取りについてグループディスカッションを行う。		
(5) 評価方法	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(6) 特記事項・履修上の注意	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
	必修科目 教科書のボリュームはそれほど大きくはありませんが、現代文、古文、漢文とバリエーションに飛んでいます。古文、漢文は、あらかじめ、中学校までの文法や語彙の復習をしておくことをお勧めします。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
論理国語	4単位	3年次	前期	論国701	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	対話とは何か・世界をつくり替えるために	・対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ・学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	6月5日	8月28日
2	少女たちの「ひろしま」「ふしぎ」ということ	・戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ・挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」に対する考えを深める。	6月5日	8月28日
3	学ぶことと人間の知恵 ラップトップ抱えた「器器人」	・文のつながりに着目して読解し、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ・事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。	6月5日	8月28日
4	思考の肺活量 安心について	・比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。	6月5日	8月28日
5	弱肉強食は自然の摂理か 複数の「わたし」	・筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ・文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	6月5日	8月28日
6	はじめに「言葉」がある 楽に働くこと、楽しく働くこと	・筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	6月5日	8月28日
7	最初のペンギン 豊かさとは生物多様性	・タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ・論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	7月31日	8月28日
8	物語の外から カフェの開店準備	・二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ・日々の光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。	7月31日	8月28日
9	鏡としてのアンドロイド ロボットが隣人になるとき	・アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ・哲学的思考に沿って書かれた評論を読み、人間の意志や自由について理解を深める。	7月31日	8月28日
10	言葉は「物の名前」ではない 科学的「発見」とは	・言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ・本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。	7月31日	8月28日
11	知識における作者性と構造的性 もう一つの知性	・インターネットと本を比較して書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ・科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。	7月31日	8月28日
12	ホンモノのおカネの作り方 未来のありか	・二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ・小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全12回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の4単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	資料を基に論文を執筆、グループディスカッションで改善点を見出して修正し完成する。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、現代の国語および言語文化を履修する必要がある。 全体の文章量はそれほどでもありませんが、難解な文章も少なくなく、レポートの本数の多いので、教科書の読解と、映像授業にうまく時間を使うことが必要になります。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
文学国語	4単位	2年次	後期	文国701	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1. 光の窓 2. 雨月物語 3. 山月記	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・『雨月物語』が筆者に与えた影響を考える。 ・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	11月20日	2月5日
2	1. 窓 2. 言葉を生きる 3. 詩と感情生活	場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きていること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・論の展開を踏まえて筆者の主張を捉え、詩の特質について考えを深める。	11月20日	2月5日
3	1. 山椒魚 2. 沖縄の手記から	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。	11月20日	2月5日
4	1. 鉄 2. 竹 3. 永訣の朝 4. 硝子の駒 5. モードの変遷	・詩に表現された事柄を捉え、日常の行動に込められた思いを読み取る。 ・特徴的なリズムや表現に気づき、効果を読み取る。 ・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から思いを解釈する。 ・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた心情を読み取る。 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。	11月20日	2月5日
5	1. こころ	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。	11月20日	2月5日
6	1. 文学のふるさと 2. 文学の未来 3. 鞆 4. あの朝	・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。 ・寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・場面ごとの設定を押さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。	11月20日	2月5日
7	1. 国語から放立って 2. 書かれた風景の中へ 3. 檸檬	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係を考えを深める。 ・筆者の読書体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係を理解する。 ・登場人物の心理を読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	1月22日	2月5日
8	1. コンビニの母 2. 夏の姿 3. 帰途 4. 小語なる古城のほとり 5. 金剛の露 6. 平気	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・象徴的な表現が示している内容を理解し、描かれた情景や心情を読み取る。 ・逆説的な表現の中に描かれた、「言葉」に対する「ぼく」の思いを読み取る。 ・文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 ・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	1月22日	2月5日
9	1. 空っぽの瓶 2. クレールという女 3. 父と暮せば	・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・長い時間をかけて深まってきた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	1月22日	2月5日
10	2. 舞姫	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	1月22日	2月5日
11	1. 演技する「私」 2. 映画の可能性のために	・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・映画と小説を題材にした評論を読み、作品を成立させる視点のありようについて理解を深める。	1月22日	2月5日
12	1. 葉桜と魔笛 2. 蠅	・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全12回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の4単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
『今昔物語集』『離魂記』という和漢の古典を元に、翻案を創作する。創作について、グループで批評しあって完成度を高める。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、現代の国語および言語文化を履修する必要がある。 擬古文的なもの以外は、それほど難解な文章はありませんが、全体のボリュームが大きく、レポート本数も多いので、映像授業の時間を確保すること、効率よくレポートを進めることに注意する必要があります。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学I	3単位	1年生	前期	数学I 704 (東京書籍)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会現象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 数と式 1-1 文字と式	文字を使った式、多項式と単項式、多項式の計算、乗法公式、因数分解、展開・因数分解の工夫と利用を学び、高校数学の基礎を養う。	6月5日	8月28日
2	1 数と式 1-2 実数	平方根、根号をふくむ式の計算、数の分類、分数と小数についてを学習する。	6月5日	8月28日
3	1 数と式 1-3 方程式と不等式	1次方程式、不等式、不等式の性質、不等式の解、不等式の解き方を学ぶ。また、2次方程式とその解き方、2次方程式の解の公式についての理解を深める。	6月5日	8月28日
4	2 2次関数 2-1 2次関数とそのグラフ	関数、1次関数とそのグラフ、2次関数とそのグラフを学び、グラフの平行移動や2次関数のグラフを活用する発展的な問題に取り組む。	6月5日	8月28日
5	2 2次関数 2-2 2次関数の値の変化	2次関数の最大値・最小値、2次関数のグラフと2次方程式を学ぶ。さらに、いろいろな2次不等式の解き方についても学習する。	7月31日	8月28日
6	3 三角比 3-1 鋭角の三角比	三角形、タンジェント、サインとコサイン、三角比の利用、三角形の相互関係などを学び、三角比の考え方を理解する。	7月31日	8月28日
7	3 三角比 3-2 三角比の応用	三角形の面積、正弦定理、余弦定理を学習するとともに、鈍角の三角比、三角比の相互関係、鈍角の三角比の利用などの発展的な内容についても理解を深める。	7月31日	8月28日
8	4 データの分析 4-1 データの分析	データにもとづいた問題解決の進め方、データの特徴の調べ方、代表値、四分位数と箱ひげ図、分散と標準偏差、相関関係、相関係数、データにもとづく考え方を学ぶ。	7月31日	8月28日
9	5 集合と論証 5-1 集合と論証	集合、命題と集合、命題と証明について学習する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全9回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(月)～16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	数学Iに関する課題に対して、その解決方法を個人ワークやグループワークを通して考える。課題解決型学習を通して数学的思考力・論理的思考力を身に着ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第9回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学Ⅱ	4単位	2年次	前期	新数学Ⅱ 717 (東京書籍)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 方程式・式と証明 1-1 式の計算 1-2 2次方程式	3次の乗法公式と因数分解、負の数の平方根について学ぶ	6月5日	8月28日
2	1 方程式・式と証明 1-3 高次方程式 1-4 式と証明	整式の除法、因数定理、高次方程式、等式の証明について学ぶ	6月5日	8月28日
3	2 図形と方程式 2-1 座標と直線の方程式	2直線の距離、分点の座標、2直線の関係について学ぶ	6月5日	8月28日
4	2 図形と方程式 2-2 円の方程式 2-3 軌跡と領域	円の方程式、円と直線、不等式の表す領域について学ぶ	6月5日	8月28日
5	3 三角関数 3-1 三角関数	一般角、 180° 以上または負の角における三角比、三角関数の相互関係について学ぶ	6月5日	8月28日
6	3 三角関数 3-1 三角関数	三角関数のグラフ、性質について学ぶ	7月31日	8月28日
7	3 三角関数 3-2 加法定理	加法定理の意味と使い方、2倍角、合成、弧度法について学ぶ	7月31日	8月28日
8	4 指数関数・対数関数 4-1 指数関数	指数の拡張、累乗根、グラフについて学ぶ	7月31日	8月28日
9	4 指数関数・対数関数 4-2 対数関数	対数の性質、グラフ、常用対数について学ぶ	7月31日	8月28日
10	5 微分と積分 5-1 微分係数と導関数	平均変化率、極値の定義、導関数、接線について学ぶ	7月31日	8月28日
11	5 微分と積分 5-2 導関数の応用	関数の極大・極小、最大・最小について学ぶ	7月31日	8月28日
12	5 微分と積分 5-3 積分	不定積分、定積分、面積について学ぶ	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全12回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の4単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	数学Ⅱに関する課題に対して、その解決方法を個人ワークやグループワークを通して考える。課題解決型学習を通して数学的思考力・論理的思考力を身に付ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目。 この科目を履修するためには、数学Ⅰを履修しておく必要がある。また、大学進学で数学が必要な人は履修しておく必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学Ⅲ	3単位	3年生	前期	数学Ⅲ 702 (東京書籍)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
	(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 関数と極限 1-1 関数	簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について学ぶ。合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができるように指導する。	6月5日	8月28日
2	1 関数と極限 1-2 数列の極限	数列の極限について理解し、数列 $\{r^n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることを学ぶ。無限級数の収束、発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることを学ぶ。	6月5日	8月28日
3	1 関数と極限 1-3 関数と極限	関数の値の極限・関数の連続性について学ぶ。	6月5日	8月28日
4	2 微分法 2-1 微分法	微分可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることを学ぶ。合成関数の導関数、三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、それを求めることを学ぶ。	6月5日	8月28日
5	3 微分的应用 3-1 関数の増減	導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形をかいたりすることができるよう学習する。	7月31日	8月28日
6	3 微分的应用 3-2 微分のいろいろな応用	いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形をかくことにより、最大値・最小値を求めたり、方程式や不等式に応用する力をつける。また、直線上の点の運動や平面上の点の運動について、速度及び加速度と点の位置を表す関数の導関数との関係を理解する。	7月31日	8月28日
7	4 積分とその応用 4-1 不定積分	不定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて不定積分が計算できる。置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分を求めることを学ぶ。	7月31日	8月28日
8	4 積分とその応用 4-2 定積分	定積分の基本的な性質についての理解を深め、それらを用いて定積分が計算できる。置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて定積分を求めることを学ぶ。	7月31日	8月28日
9	4 積分とその応用 4-3 面積・体積・長さ	定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さなどを求めることを学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全9回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	数学Ⅲに関する課題に対して、その解決方法を個人ワークやグループワークを通して考える。課題解決型学習を通して数学的思考力・論理的思考力を身に付ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第9回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、数学Ⅱを履修しておく必要がある。また、大学進学で数学が必要な人は履修しておく必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学A	2単位	1年次	後期	数学A 704 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】</p> <p>(2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。【思考・判断・表現】</p> <p>(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 場合の数と確率 1-1 場合の数	部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方や順列、組合せの意味や性質を理解し、その総数の求め方を学ぶ。	11月20日	2月5日
2	1 場合の数と確率 1-2 確率	試行と事象、事象の確率について学ぶ。また、余事象や独立な試行、反復試行、条件付き確率、期待値について理解し、求め方や、活用の仕方を学ぶ。	11月20日	2月5日
3	2 図形の性質 2-1 平面図形の性質 2-2 三角形の性質	多角形の内角、外角の性質や三角形の合同条件、相似条件を理解し、辺の長さや角の大きさの求め方を学ぶ。	11月20日	2月5日
4	2 図形の性質 2-3 円の性質 2-4 空間図形	三角形の比や重心、内心、外心、の性質を利用した、線分の長さや角の大きさの求め方を学ぶ。多面体、正多面体やオイラーの多面体定理を学ぶ。	1月22日	2月5日
5	3 数学と人間活動 3-1 数や位置を表す 3-2 数のつくりを調べる	古代の人々の記数法や漢数字による記数法を学ぶ。10進法、2進法の数の表し方のしくみを学び、変換の仕方を学ぶ。数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念を学ぶ。	1月22日	2月5日
6	3 数学と人間活動 3-3 はかる 3-4 数学で遊ぶ	長さや面積の単位を調べ、測量について学ぶ。魔法陣やパズルを論理的に考え、解くことができる。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、数学Iを履修または同時履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学B	2単位	2年次	後期	数学B 702 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 数列 1-1 数列	数列の概念及び等差数列や等比数列について理解し、一般項や和の求め方を学ぶ。	11月20日	2月5日
2	1 数列 1-2 いろいろな数列	記号 Σ の意味と性質を理解し、 Σ を用いた和の求め方を学ぶ。また、階差数列や数列の和から一般項を求め方や、群数列について学ぶ。	11月20日	2月5日
3	1 数列 1-3 漸化式と数学的帰納法	数学的帰納法について理解し、等式などの証明への利用の仕方を学ぶ。	11月20日	2月5日
4	2 統計的な推測 2-1 標本調査 2-2 確率分布	標本調査の意義や確率変数、確率分布を理解し、期待値や分散、標準偏差の求め方を学ぶ。	1月22日	2月5日
5	2 統計的な推測 2-3 正規分布	連続分布とその代表の正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数の確率を求め方を学ぶ。	1月22日	2月5日
6	2 統計的な推測 2-4 統計的な推測	母平均、母分散、母標準偏差や標本平均の分布、分散などを求め方を学ぶ。また、標本平均の分布と正規分布の関係を理解し、標本平均の分布から母平均を推定する方法を学ぶ。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	数学Bに関する課題に対して、その解決方法を個人ワークやグループワークを通して考える。課題解決型学習を通して数学的思考力・論理的思考力を身に着ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 大学進学で数学が必要な人は履修しておく必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
数学・数学C	2単位	2年次	後期	数学C 702 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 ベクトル 1-1 平面上のベクトル	平面上のベクトル、ベクトルの分解・成分・内積について学ぶ	11月20日	2月5日
2	1 ベクトル 1-2 ベクトルの応用1 -3 空間におけるベクトル	位置ベクトル、ベクトル方程式、空間のベクトル、空間座標と空間のベクトル、空間のベクトルの内積、位置ベクトルと空間の図形について学ぶ	11月20日	2月5日
3	2 平面上の曲線 2-1 2次曲線	放物線、楕円、双曲線、2次曲線と平行移動・直線・離心率について学ぶ	11月20日	2月5日
4	2 平面上の曲線 2-2 媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示、極座標と極方程式について学ぶ	1月22日	2月5日
5	3 複素数平面 3-1 複素数平面	複素数平面、複素数の極形式、ド・モアブルの定理について学ぶ	1月22日	2月5日
6	3 複素数平面 3-2 図形への応用	2直線のなす角、複素数平面上の図形について学ぶ	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
数学Cに関する課題に対して、その解決方法を個人ワークやグループワークを通して考える。課題解決型学習を通して数学的思考力・論理的思考力を身に着ける。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 大学進学で数学が必要な人は履修しておく必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
英語コミュニケーションI	3単位	1年次	前期	All Aboard ! (Revised) CIO02-901 (東京書籍)	なし	5単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	基本的な英単語や文法項目を理解し、英語コミュニケーションの基礎を身に着ける。 動画や音源を活用し、コミュニケーションに必要な、音声の受信・発信の力を養う。 ペアワークやグループワークを通じ、積極的にコミュニケーションを取る態度を養い、言語・非言語コミュニケーションの楽しさを体感する。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	Lesson 1: 過去形 Lesson 2: 進行形	be動詞や一般動詞の過去形や進行形の作り方や否定文、疑問文の作り方について学ぶ。	6月5日	8月28日
2	Lesson 3: 助動詞	助動詞の平叙文、否定文、疑問文の作り方について学ぶ。	6月5日	8月28日
3	Lesson 4: to不定詞	to不定詞の様々な用法について学ぶ。	6月5日	8月28日
4	Lesson 5: 動名詞 Reading 1: Short Stories in English	動名詞の作り方や文での役割、また動名詞を用いた様々な慣用表現について学ぶ。	6月5日	8月28日
5	Lesson 6: 受け身	受け身の平叙文、否定文、疑問文の作り方について学ぶ。	7月31日	8月28日
6	Lesson 7: 比較表現	原級、比較級、最上級を用いた様々な比較表現について学ぶ。	7月31日	8月28日
7	Lesson 8: 現在完了形	現在完了形の平叙文、否定文、疑問文の作り方について学ぶ。	7月31日	8月28日
8	Lesson 9: 名詞を後ろから説明する分詞	現在分詞と過去分詞を用いた様々な文を学ぶ。	7月31日	8月28日
9	Lesson 10: 関係代名詞 Reading 2: Mujina	関係代名詞の平叙文、否定文、疑問文の作り方について学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全9回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	5単位時間(※本来のI2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(火)~17日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態 ペアワークやグループワークによる対話を通じて、英語コミュニケーションの基礎を身に着ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回~第9回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評価する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 中学校で学んだ基礎を踏まえ、英語を聞く・読む・話す・書く活動を通して、身近な話題について情報や考えを理解し、実際の場面で使える英語力を伸ばします。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
論理・表現I	2単位	1年次	後期	NEW FAVORITE I (Revised) 論I 002-901(東京書籍)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	Unit1 Lesson1 初めての食事 Lesson2 道に迷う Lesson3 人物紹介	「褒める」「勧める」「断る」「提案する」「依頼する」「説明する」「紹介する」「注意を引く」ための表現を学ぶ。	11月20日	2月5日
2	Lesson4 体調が悪い Lesson5 買い物 Lesson6 行ってみたい場所	「体調を伝える・尋ねる」「指示・助言をする」「描写する」「相づちを打つ」「希望・理由を述べる」ための表現を学ぶ。	11月20日	2月5日
3	Lesson7 イベントに誘われる Lesson8 スクールカウンセラーに相談 Lesson9 お気に入りを紹介	「誘う」「誘いを受ける・断る」「状況を説明する」「申し出る」「助言・提案する」「感謝する」「要約し紹介する」「感想・批評を述べる」ための表現を学ぶ。	11月20日	2月5日
4	Lesson10 待ち合わせに遅刻 Lesson11 家庭でのディスカッション Lesson12 英字新聞に投稿	「謝る」「許す」「励ます」「共感を述べる」「残念な気持ちを述べる」「解決策を提案する」「要望・主張を述べる」「理由を述べる」ための表現を学ぶ。	1月22日	2月5日
5	Unit2 Lesson1 クラウドでディベート① Lesson2 クラウドでディベート② Lesson3 経験談のスピーチ Lesson4 遊びやスポーツを紹介	「理由を述べる」「例を挙げる」「反駁する」「引用する」「描写する」「経験から助言する」「順序立てて説明する」「聞き手の知識に合わせて説明する」ための表現を学ぶ。	1月22日	2月5日
6	Lesson5 日本をPR Lesson6 物事の両面を伝える Lesson7 読み手を納得させる Lesson8 読み手を説得する	「事実・意見を区別して述べる」「文化・習慣を説明する」「利点・欠点を述べる」「話題を発展させる」「話題を変える」「主張の理由を説明する」「理由を要約する」「引用する」「条件を出して意見を述べる」「説得する」ための表現を学ぶ。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア 教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認 視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	視聴日程 学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数 4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所 岡山本校	実施日程 12月7日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態 ペアワーク、チームワークを通して英語を使ってコミュニケーションを取る方法を学ぶ。話した内容を英文でまとめることに挑戦する。		
(4) 単位認定試験	実施時期 2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	出題範囲 第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	受査資格 全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 英語で自分の考えや意見を、理由を示しながら分かりやすく伝える力を身につけます。スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、論理的に話したり書いたりする力を伸ばします。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
英語実技A	2単位	2年次	前期	動画でわかる英文法 [必修文法編]	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
(1) 英文法、特に「品詞」の理解を深める (2) 大学入試や実用英語で求められる英語力の基礎を固める (3) 文法を身に付け、長文読解や英作文に活用できる基礎を身に付ける

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	Chapter 1「品詞・五文型と受動態」	品詞/句と節/自動詞・他動詞/文型/受動態	6月5日	8月28日
2	Chapter 2「不定詞と動名詞」	不定詞と意味上の主語/不定詞の形容詞的用法・副詞的用法/動名詞/動名詞の意味上の主語と慣用表現	6月5日	8月28日
3	Chapter 3「分詞と分詞構文」/ Chapter 4「知覚動詞と使役動詞」	分詞/分詞構文/準動詞の総まとめ/知覚動詞と使役動詞	6月5日	8月28日
4	Chapter 5「関係詞」/ Chapter 6「時制」	現在形と過去形/未来と現在進行形/現在完了形/過去完了と未来完了	7月31日	8月28日
5	Chapter 7「助動詞」/ Chapter 8「仮定法」	must/may/can/助動詞+完了形助動詞を使った慣用表現/仮定法過去と仮定法過去完了/仮定法未来と仮定法の公式まとめ/仮定法の様々な表現/潜在仮定法/仮定法現在	7月31日	8月28日
6	Chapter 9「比較」/ Chapter 10「前置詞」	比較の基本/比較の様々な表現/the+比較級構文と最上級の表現/前置詞の攻略	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠の映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	5月19日(火)~22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
テキストに準拠した内容について、講義に加え、グループワーク、ペアワークを交えた、発話やコミュニケーションも含めた形で実施する。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回~第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 教材の各ページのQRコードでの動画講義をしっかりと受講し、Google classroomのメディア確認問題に取り組んでください。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
英語実技B	2単位	2年次	後期	動画でわかる英文法 【読解入門編】	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
(1) 基礎的な英文法力を実際の文章で役立てる応用力を身に付ける (2) 大学入試や実用英語で求められる英語力の基礎を固める (3) 文法を身に付け、長文読解や英作文に応用できる基礎を身に付ける

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	Part 0 英語の基本	基本文型/区と節/名詞/動詞/形容詞/副詞/前置詞/接続詞	11月20日	2月5日
2	Part 1 文型	SVを見抜く/Vの後ろを見抜く	11月20日	2月5日
3	Part 2 品詞(前)	to doを見抜く/doingを見抜く	11月20日	2月5日
4	Part 2 品詞(後)	doneを見抜く/知覚動詞・使役動詞を見抜く	1月22日	2月5日
5	Part 3 構文(前)	itを見抜く/関係詞・疑問詞を見抜く①②	1月22日	2月5日
6	Part 3 構文(後)	thatを見抜く/It is ~ thatを見抜く	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠の映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
テキストに準拠した内容について、講義に加え、グループワーク、ペアワークを交えた、発話やコミュニケーションも含めた形で実施する。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 教材の各ページのQRコードでの動画講義をしっかりと受講し、Google classroomのメディア確認問題に取り組んでください。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
英語実技C	2単位	3年次	前期	動画でわかる英文法 【読解基礎編】	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
(1) 英文法、特に「品詞」の理解を深める (2) 英文を読む際の思考のプロセスを理解する (3) 紛らわしい品詞の識別を通じ、複雑な英文でも読み解く分析力を身に付ける

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	Part 0「読解入門の見取り図」	文型を見抜く/to doを見抜く/doingを見抜く/doneを見抜く/itを見抜くなど	6月5日	8月28日
2	Part 1「品詞の識別」	asを見抜く/-everを見抜く	6月5日	8月28日
3	Part 2「構文の識別」	受動態を見抜く/倒置を見抜く/比較を見抜く	6月5日	8月28日
4	Part 3「共通関係の識別」	並列を見抜く/省略を見抜く	7月31日	8月28日
5	Part 4「和訳の構築と変換」	無生物主語構文/名詞構文	7月31日	8月28日
6	巻末付録	覚えておきたい語彙・表現復習のための例文一覧	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠の映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	テキストに準拠した内容について、講義に加え、グループワーク、ペアワークを交えた、発話やコミュニケーションも含めた形で実施する。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 教材の各ページのQRコードでの動画講義をしっかりと受講し、Google classroomのメディア確認問題に取り組んでください。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
地理総合	2単位	2年次	前期	地理総合701 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを理解する。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	地図や地理情報システムでとらえる現代世界	地球の特性と地図に関わる私たちの日常についてさまざまな地図があることを理解し、地図利用の可能性を学習する。地形図や地理院地図の特徴を理解する。地理情報システム(GIS)が幅広い分野で使われていることについて学習する。	6月5日	8月28日
2	人々の生活文化と多様な地理的環境	生活文化と自然環境:多様な理解と地形に伴う生活文化の成り立ちについて、世界には多様な文化が存在すること、近年それが均一化する傾向にあることを理解する。また、地域によって文化が異なる理由について自然環境の観点から考える。	6月5日	8月28日
3	生活文化と自然環境	生活文化と産業:社会環境・工業・通信産業等の観点から、地域による特色を理解する。また、情報化社会における働き方について考える。	6月5日	8月28日
4	生活文化と産業～地球環境問題	環境問題・資源エネルギー問題・人口問題:環境問題の発生が、人間の活動によって引き起こされていることを理解する。資源・エネルギーの生産地と消費地が地理的に離れている事を理解し、現在のエネルギー問題について考える。世界的な人口の推移とそれに伴う問題・対策について学習する。	7月31日	8月28日
5	さまざまな地球的課題と国際協力(人口・民族問題)	食料問題・住居都市問題・民族問題:食料問題と住居・都市問題について発生している背景と対策について理解する。民族問題について、具体例を学習した上で、先進国と発展途上国の対立などの課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。	7月31日	8月28日
6	自然環境と防災	日本の地形の特徴について理解し、地震災害・津波災害について具体的に学ぶ。大規模災害への対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているか理解する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア 教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認 視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	視聴日程 学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数 1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所 岡山本校	実施日程 5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
		実施形態	
		自然環境と自然災害との関係:自然災害について、自分の出身地域で起こりえる災害とその対策についてグループワークを通して考察する。共通の対策として、地理情報システム(GIS)の仕組みとその活用を理解する。	
(4) 単位認定試験	実施時期 9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	出題範囲 第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	受査資格 全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 大学入試・共通テストを意識した表・グラフの読み取りを練習していきます。地理の基本的な知識を問う形になりますので、楽しく学びましょう。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
歴史総合	2単位	1年次	後期	歴史総合701(東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	① 近現代の歴史事象について、世界と日本の双方の視点から理解し、現代社会の諸課題がどのように形成されてきたのかを捉える。また、資料を活用して必要な情報を整理・活用する技能を身に付ける。
	② 時期や推移、相互の比較などに着目しながら歴史事象を多角的に考察し、議論や表現を通して歴史の意義や課題解決の方向性について考える力を養う。
	③ 歴史の学習を通して、よりよい社会の実現に向けて主体的に社会に関わろうとする態度を育てるとともに、日本の文化や歴史への理解を深め、それらを自らの視点の基盤として意識しながら、他者の文化や歴史を尊重する姿勢を養う。また、歴史を「時空間の中での人間の営み」として捉える視点を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	歴史の特質と資料	【歴史はどのように見て、考えればよいのか】 遺物・文書・画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が記述されていることを理解する。	11月20日	2月5日
2	近代化と世界の中の日本	【なぜ近代化は世界を大きく変えたのか】 交通の発達、産業の変化、権利意識の拡がり、教育や労働、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について多角的に考察する。	11月20日	2月5日
3	国民国家の形成と明治維新	【なぜ近代化は新たな課題を生んだのか】 市民革命の影響や国民国家の形成に着目し、日本における明治維新の歴史的意義について理解する。また、その後の列強諸国の関係の変化や帝国主義の拡がりにも目を向け、アジア諸地域の変容について考察する。	11月20日	2月5日
4	第一次世界大戦と社会の変容	【なぜ世界は戦争へと向かったのか】 第一次世界大戦前後の社会の変化を理解し、戦後の社会変容やさまざまな社会運動との関連について多角的に考察することで、大衆社会の形成と社会運動の拡がりについて理解する。	11月20日	2月5日
5	経済危機と第二次世界大戦	【なぜ戦後の世界は分断されたのか】 第二次世界大戦の推移やその影響、国際秩序の形成について考察し、戦争の性格や惨禍、戦時下の社会状況、占領政策と国際情勢との関係を多角的に捉えることで、戦後国際秩序の形成と日本の国際復帰について理解する。	11月20日	2月5日
6	グローバル化と現代の課題	【世界はどこへ向かうのか 私たちはどんな未来を描くのか】 冷戦や国際関係の変化に着目し、人・資本の移動、情報通信の発展、食糧・人口問題、資源・エネルギー問題、感染症などに関する資料を活用する。グローバル化に伴う生活や社会の変容を多角的に考察し、現代社会の課題について問いを立て、表現する。	11月20日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google Classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
グループワークを通して、近現代史を素材に、時間的・空間的な視点から人間の営みを多角的に考察し、現代社会の課題を主体的に探究する。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 歴史上の出来事を単に暗記するのではなく、その背景やつながりを考えながら学習を進めます。資料を手がかりに世界と日本の歴史を関連付け、現代社会とのつながりも意識して学びましょう。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
地理探究	3単位	3年次	前期	地理探究701 (東京書籍)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
①地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。 ②①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。 ③①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。	

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1-1.自然環境 世界の地形、気候と自然環境、気候と人々の生活	人間生活の基盤となるさまざまな世界の地形について特徴や形成過程について深く理解する。地球規模の気候の特徴を学び、植生や土壌などの自然環境について理解する。気候区の特徴を理解し、気候と人々の生活の関連性について学習する。	6月5日	8月28日
2	1-1.自然環境 日本の自然環境と自然災害、世界の環境問題 1-2.産業と資源 産業の発展と社会的分業、農林水産業、食料問題、エネルギーと鉱産資源	日本の自然環境から発生可能性のある自然災害を学び防災・減災について考える。世界の環境問題について考察する。 産業の発展と社会的分業について理解し、グローバル化する農林水産業と世界の食料問題について考察する。資源分布の偏りやエネルギー消費の地域差を学び、資源ナショナリズムの事例などを考察する。	6月5日	8月28日
3	1-2.産業と資源 資源・エネルギー問題、工業の立地と工業地域の変容、第三次産業	エネルギー安全保障の観点から再生可能エネルギーや資源自給率の現状を学習する。世界の工業立地や工業地域の変容を理解する。	6月5日	8月28日
4	1-3.交通・通信、貿易、観光 交通・通信、貿易と経済連携、観光 1-4.人口、村落・都市 人口	グローバル化に伴い発達する交通・通信、貿易と経済連携、観光について学び、世界で生じている問題を多角的に考察する。 人口分布と人口増加の地域的な傾向を理解し、それらに影響を与える人口転換や人口移動について考える。	6月5日	8月28日
5	1-4.人口、村落・都市 人口問題、村落・都市、居住・都市問題 1-5.生活文化、民族・宗教 生活文化の地域性	世界の人口分布や、発展途上国と先進国が抱える人口問題を理解する。村落や都市の機能や分布を学び大都市圏の発展過程を理解する。発展途上国と先進国が抱える居住・都市問題を理解し日本の都市が直面する課題を考察する。 文化と環境の相互関係や、文化が変容する理由について考察する。	6月5日	8月28日
6	1-5.生活文化、民族・宗教 民族・言語・宗教、民族問題、現代の国家と領土問題 2-1.現代世界の地域区分 地域区分の意義と方法	生活文化の地域性、民族・言語・宗教の多様性を学び、それに伴い起こる民族問題を理解・考察する。国家と領土問題を世界的な視野で捉える。 地域区分の意義と方法を理解し、地域の捉え方を多角的に考察する。	7月31日	8月28日
7	2-2.現代世界の諸地域 東アジア、東南アジア、南アジア	地誌的考察方法を基に、東アジア、東南アジア、南アジア地域について事象ごとに整理し考察する。	7月31日	8月28日
8	2-2.現代世界の諸地域 西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカ、ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカ	地誌的考察方法を基に、西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカについて、二つの地域を比較し考察する。ヨーロッパは地域統合の観点で考察する。ロシア、アングロアメリカ、ラテンアメリカについて事象ごとに整理し考察する。	7月31日	8月28日
9	2-2.現代世界の諸地域 オセアニア 3-1.持続可能な国土像の探究 日本の地理的諸課題を読み解く、持続可能な国土像の探究	地誌的考察方法を基に、オセアニアについて事象ごとに整理し考察する。 これまでの学習内容を踏まえて、日本の地域構造の特徴や国土政策の変遷を学び、持続可能な国土形成について探究する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全9回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
		実施形態	
		世界各国または日本に関する統計データ・資料などを駆使し、地理的課題の解決策や持続可能な国土像などについて、グループワークなどを通じて理解を深める。	
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第9回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目。この科目を履修するためには、地理総合を履修しておく必要がある。 オンライン地図や統計データなどをしっかりと活用しながら学習を進めることが必要。時事問題などにも積極的に触れ社会と接続させて学ぶ。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
日本史探究	3単位	3年次	前期	日本史探究701 (東京書籍)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	① 日本の歴史の展開について、時代の転換や諸事象の相互の関連に着目しながら理解を深め、現代社会につながる歴史的背景を捉えらるとともに、資料から必要な情報を収集・整理・活用する技能を身に付ける。
	② 時期や推移、比較、因果関係などに着目しながら、歴史事象の意味や意義、特色を多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸課題について考え、表現する力を養う。
	③ 日本の歴史に対する関心を高め、歴史的な見方・考え方を働かせながら、よりよい社会の実現に向けて主体的に探究しようとする態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	歴史のはじまりと古代社会の成立	【先史社会から古代国家の形成へ】 人類の出現から農耕社会の成立、ヤマト政権の形成をたどり、古代国家の支配構造とその成立過程を理解する。	6月5日	8月28日
2	律令国家と貴族社会のしくみ	【中国文化の影響と国家運営】 中国社会や文化の影響を踏まえ、日本における国家運営の基本姿勢や社会の変化について考察する。	6月5日	8月28日
3	武士の登場と武家政権の成立	【公地公民制の崩壊と武士の台頭】 公地公民制の崩壊過程と荘園公領制の展開を踏まえ、新たな支配者として武士が台頭する過程を理解する。	6月5日	8月28日
4	武家支配の拡がり近代社会への転換	【文化の展開と社会の変容】 文化の勃興、宗教の変容、政治の揺籃期に着目し、中世から近世への移行過程を考察する。	6月5日	8月28日
5	幕藩体制の確立とそのゆらぎ	【幕藩体制の展開と改革】 幕藩体制の成立とその後の政治の変容、改革の背景や内容に着目し、近世社会が抱えた矛盾を考察する。	6月5日	8月28日
6	近代社会の幕開けと近現代の展開	【幕末の動乱と明治維新】 江戸幕府の崩壊と明治維新に伴う政治・社会の変容に着目し、近代社会の成立過程を理解する。	7月31日	8月28日
7	資本主義と民主主義の展開	【資本主義の成立と社会の変化】 日清・日露戦争から第一次世界大戦に至る過程を踏まえ、資本主義の成立と社会・政治の変化との関係を考察する。	7月31日	8月28日
8	第二次世界大戦とその後の日本	【戦争と戦後改革】 中国侵略と第二次世界大戦の展開を踏まえ、戦後の民主化政策と日本社会の変化を理解する。	7月31日	8月28日
9	高度経済成長と現代日本の課題	【戦後日本の発展と国際社会】 高度経済成長の背景と影響を理解し、国際社会の中の日本の位置づけや課題について考察する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全9回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google Classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日誌
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
多様な資料をもとに歴史を探究し、現代社会の成り立ちを考える。グループワークや発表を通じて、思考力・表現力・協働力を養う。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第9回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、歴史総合を履修する必要がある。 歴史上の出来事を単に暗記するのではなく、その背景や因果関係、時代ごとのつながりを意識しながら学習を進めます。資料を手がかりに日本の歴史の展開を多面的・多角的に捉え、現代社会とのつながりも意識しながら探究的に学びましょう。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
公共	2単位	1年次	前期	公共 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をなす公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	『公共』のとびら	自分らしさの形成過程、人間関係と社会との関わり、「個人」として尊重することの意味、「社会的な存在」であることの意味と意義、個人の意思や意見と伝統・文化との関わりなど、自己形成にまつわる課題を考察する。	6月5日	8月28日
2	民主政治と私たち	目的論の象徴的事例と倫理、義務論の意味と正義における諸観点、「協働」の成立原理とゲーム理論からの視点、民主主義の意義と「多数者の専制」、憲法の内容と意義とその成り立ち、人権と平等を確保するための諸要素などについて考察する。	6月5日	8月28日
3	法の働きと私たち	社会生活に果たす政治の役割、地域社会の諸課題と地方自治の役割、三権分立における国会の位置づけ、行政権の在り方とその周辺、選挙制度のしくみと参政の意義、民主政治における政党の役割と現状、メディア・リテラシーと情報への視点などを学ぶ。	6月5日	8月28日
4	経済社会で生きる私たち	法の構成と社会との関係、法の適用と解釈の効果、社会生活における民法の役割、契約の意義と法的な位置づけ、消費者の心得と保護の在り方、「司法権の独立」の意義と担保の在り方、社会秩序を維持する刑事司法と私たちの関わりなどについて学ぶ。	7月31日	8月28日
5	私たちの職業生活	経済活動と経済循環の変遷と現状、価格決定のメカニズムと市場経済の在り方、経済指標の意味と景気動向との関係、貨幣の諸機能と金融システムの役割、金融政策の事例確認とその効果、財政の機能とそのしくみ、税金の原則と実態からみた財政問題、社会保障の存在意義と日本の実情、持続可能な社会保障制度の在り方、職業と労働市場の関係と経済との関係、労働問題の実態認識などについて多角的に考察する。	7月31日	8月28日
6	国際平和への課題	国際社会の成立による国際規範の経過、国際連合の成立過程とその意義及び課題、文民統制の意義と戦後日本の防衛政策、日本の安保政策と自衛隊の役割、パレスチナ問題に象徴される不安定要素、平和の定義とその実現への課題、自由貿易と保護貿易の意味と各国の関り、外国為替市場の成立と国際通貨制度、国際経済秩序とこれからの国際関係など、現代の諸課題について情報を集めて考察する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(月)～16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	ゲーム理論と人間行動 社会における戦略思考の実態について、ワークなどを通じて学ぶ		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 社会科の基礎的な知識や考え方を学びます。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
政治・経済	2単位	3年次	前期	政治・経済 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	<p>①社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>②国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において、国家および社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	民主政治と日本国憲法の基本原理	民主主義の基本と成り立ち及び意義について、絶対王政から三権分立の過程を通じた権利の位置づけ、近現代人の獲得してきた民主的原理を学ぶ。	6月5日	8月28日
2	日本の政治機構と現代政治の課題	政治のしくみと国民の在り方及び諸課題との向き合い方、日本国憲法の規定と実際の運用実態、日本国憲法に基づく内閣や国会及び選挙について学ぶ。	6月5日	8月28日
3	資本主義経済と現代経済のしくみ	経済の基本的な構造と我々との関わり及び重要性について、マクロ経済学の在り方と現実政治との関係、通貨制度や金融政策を通して、経済政策の実態を学ぶ。	6月5日	8月28日
4	日本経済及び現代日本の諸課題	歴史的経緯とその教訓及び不可欠な向き合い方や、労働・年金・社会保障などを通して日本の社会構造を学ぶ。	7月31日	8月28日
5	国際政治のしくみと日本	世界の中の日本への認識と世界市民としての姿勢、国際社会の成り立ちに対する各種の条約と現況、国際法を軸に世界の動向と日本の立場を学ぶ。	7月31日	8月28日
6	国民経済と国際経済の現状と国際社会の諸課題	グローバル社会における経済の捉え方、貿易と国際決済から紛争と調整の在り方及び民族問題、貿易上の諸事項から国際経済体制の変遷と対応について学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
(4) 単位認定試験	実施形態		
	18歳からの社会参加の在り方について、法律や現代社会のしくみ、課題などを踏まえた上で、自分自身はどのように行動するかを、グループワークなどを通じて理解を深める。		
(5) 評価方法	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(6) 特記事項・履修上の注意	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
	<p>選択科目 この科目を履修するためには、公共を履修しておく必要がある。 時事問題などにも積極的に触れ、現代社会と接続させて学ぶ。</p>		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
倫理	2単位	2年次	後期	倫理 (東京書籍)	なし	1単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	学習の目標
①古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	②自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。
③人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。	

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	人間の在り方と人生観・倫理観・世界観	人間とは何かを問うことで「哲学する」ことの意味を知り、古典哲学を通して哲学の意義そのものを学ぶ	11月20日	2月5日
2	宗教と社会を通じた人間と思想の関係	世界三大宗教と中国思想を基に、思想と人間の関わり方を学ぶ	11月20日	2月5日
3	近代思想の展開と社会との関わり	近代哲学への理解と認識に基づく社会の意味とそこでのあるべき生き方を探る	11月20日	2月5日
4	対象への眼差し	自己という他者・対象という他者の往還による全存在への思考機会を得る	1月22日	2月5日
5	国際社会における日本人への視点	日本人の客体化を通して、その精神性や思想風土の歩みと影響に触れる	1月22日	2月5日
6	現代の諸課題と倫理	「倫理」の本来的定義の再確認と諸課題に対する日本の姿勢の関係を考察する	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	1単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	生きづらさとは何か? 倫理で学ぶ ⇄ 反応しない練習 ⇄ 倫理の範囲内から、悩んだ時の対応や自己管理を学ぶ。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、公共を履修しておく必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・科学と人間生活	2単位	1年次	前期	東京書籍「改訂 科学と人間生活」(科人 002-901)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。 (1)観察・実験を行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。 (2)自然の事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。
-------	---

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1編 生命の科学 1章 微生物とその利 1さまざまな微生物 A身の回りの微生物 B生態系における微生物のはたらき C菌類と微生物のはたらき D水中の微生物のはたらき 2私たちの暮らしへの微生物の利用 A食品と微生物 B発酵のしくみ C微生物の発見の歴史 D医薬品と微生物	生態系における微生物の役割について考え、微生物の働きを理解する。微生物によってつくられる抗生物質など私たちの暮らしへの微生物の利用について学ぶ。	6月5日	8月28日
2	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 1ヒトの視覚と光による影響 A視覚とは何か B眼の構造とはたらき 2血糖濃度を調節するしくみ A血糖とは何か B血糖濃度の調節 3生命現象の大ききとなる遺伝子のはたらき A遺伝子とDNA B DNAの遺伝情報からタンパク質へ 4体を守る免疫のしくみ A免疫ではたらく抗体 B免疫記憶 C感染症の予防	目の視覚と光による影響について学ぶ。血糖濃度を調節するしくみを学び、血糖濃度が低下したときの体への影響を考える。体を守る免疫のしくみについて理解する。生命現象の大ききとなる遺伝子のはたらきを学び、DNAやタンパク質について理解する。	6月5日	8月28日
3	2編 物質の科学 1編 衣類と食品 1衣類の科学 A繊維の種類と性質 B生物からつくられる天然繊維 C石油からつくられる合成繊維 2食品の科学 A体に必要な栄養素 B脂質の性質 C炭水化物の性質 Dタンパク質の性質 2章 材料とその再利用 1リサイクルとは何か A資源の再利用と3R 2金属の性質とその再利用 A金属の性質 B異なる金属の区別 C金属の製錬 Dさびとその防止 E金属の再生利用 3プラスチックの性質とその再利用 Aプラスチックの性質と分類 Bプラスチックはどのようにつくられるのか Cさまざまな機能をもつプラスチック Dプラスチックの再生利用	資源の再利用と3Rについて学ぶ。繊維の性質とその利について理解する。プラスチックの種類について学び、プラスチックの種類について理解する。繊維の種類と性質を学び、天然繊維や合成繊維などを理解する。体に必要な栄養素と脂質、炭水化物、タンパク質の性質について理解する。	6月5日	8月28日
4	3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利 1光の進み方とその基本的な性質 A光の進み方 B光の分散 C光の回折と干渉 D偏光 2目に見える光と色の見え方 Aさまざまなスペクトル B光の3原色と色 3目に見えない光とその利用 A電磁波の利用① B電磁波の利用②	光の進み方とその基本的な性質について理解する。光のスペクトルをもとに目に見える光と目に見えない光とその利用について知る。	7月31日	8月28日
5	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利 1熱とは何か A光の進み方 B原子や分子の熱運動 C熱容量と比熱 2エネルギーの利用と私たちの暮らし A力学的エネルギーから熱エネルギーへ Bほかのエネルギーから熱エネルギーへ C熱エネルギーから仕事への変換 Dエネルギーの有効利用	熱運動や熱容量などから熱の性質とその利用について考える。エネルギーの利について学び、科学技術の在り方について考えるために必要な力を身につける。	7月31日	8月28日
6	4編 宇宙や地球の科学 1章 自然景観と自然災害 1身近な自然景観の成り立ち A移り変わる地球の景観 B山地や低地のでき方 C火山がつくる景観 D太陽のエネルギーがつくる景観 2自然災害と防災 A自然災害とは B地震による災害 C火山による災害と防災 D気象災害・土砂災害と防災 E自然災害との付き合い方 2章 太陽と地球 1太陽と月がもたらすリズム A太陽と月がつくる日 B海水面の変動と潮の満ち干をもちたらずか 2太陽が動かす大気と水 A太陽の放射エネルギー B地球を暖める太陽の放射エネルギー C太陽と海洋の循環がつくる気候 D大気と海洋の循環がつくる気候 E日本の四季と気象災害	日周運動や潮の満ち干から太陽と月がもたらすリズムについて理解する。太陽が動かす気とについて学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	回数	詳細内容	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること		学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認	視聴日録
(3) 面接指導	必要時間数	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所	実施日録
		岡山本校		4月13日(月)～16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
		実験や探求型授業を通して科学的に探究しようとする態度を養う。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	実施形態	
(4) 単位認定試験	実施時期	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	出題範囲	要査資格
		第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知		全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り)、単位認定試験(得点))などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。			
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(基礎を付した科目を3科目又は「科学と人間生活」を含む2科目)			

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・物理基礎	2単位	1年次	後期	東京書籍 (改定 新編 物理基礎 物 基002-902)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付け、観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出 期限	添削課題(レポート)最終 提出期限
1	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 1 運動の表し方 2 変異と速度 3 等速直線運動 4 合成速度と相対速度 5 速度が変わる運動 6 自由落下運動 7 鉛直投射 8 水平投射	運動の表し方や変位と速度について学び、等速直線運動について理解する。合成速度と相対速度の求め方について理解する。速度が変わる運動、自由落下運動、鉛直投射、水平投射の運動の特徴について学び、式の扱い方を深める。	11月20日	2月5日
2	1編 物体の運動とエネルギー 2章 力と運動の法則 9 平面内の運動 10 放物運動 11 垂直抗力と弾性力 12 慣性の法則 13 「運動の変化」と「力」 14 作用・反作用の法則 15 動摩擦力とその性質 16 静止摩擦力とその性質 17 空気の抵抗力 18 水圧と浮力	力とつり合いを学び、力の合成と分解について理解する。さらに垂直抗力と弾性力について理解を深める。慣性の法則・運動の変化と力作用・反作用の法則について力の関係を意識しながら学ぶ。動摩擦力や静止摩擦力とその性質について知る。空気の抵抗力や水圧と浮力の関係について学ぶ。	11月20日	2月5日
3	1編 物体の運動とエネルギー 3章 力学的エネルギー 19 仕事 20 仕事率 21 運動エネルギー 22 位置エネルギー 23 力学的エネルギーの保存 24 いろいろな運動でみる力学的エネルギー	仕事の原理と仕事率の求め方について理解する。運動エネルギーと位置エネルギーを考え、力学的エネルギーが保存されることを理解する。さらにいろいろな運動でみられる力学的エネルギーについて理解を深める。	11月20日	2月5日
4	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱 1 温度と熱 2 熱と物質 3 熱の移動と保存 4 熱と仕事 5 熱機関と不可逆変化	温度と熱の関係について学ぶ。物質の三態と物質の分子の状態を関連付けて理解する。熱の移動と熱量の保存について学ぶ。	1月22日	2月5日
5	1編 さまざまな物理現象とエネルギー 2章 波 6 いろいろな波 7 波の表し方 8 横波と縦波 9 波の重ね合わせ 10 定在波 11 波の反射 12 音波 13 弦の固有振動 14 気柱の固有振動	波とは何かについて理解し、波には横波と縦波があることを知る。さらに波の重ね合わせ・定在波・波の反射を学ぶ。音の性質や弦の固有振動について理解する。管楽器の例から気柱の固有振動について学ぶ。	1月22日	2月5日
6	1編 さまざまな物理現象とエネルギー 3章 電気 15 動いていない電気、動いている電気 16 電流と電気抵抗 17 直列接続と並列接続 18 電力と電力量 19 電流がつくる磁場 20 発電機のしくみ 21 直流と交流 22 電磁波 4章 エネルギーとその利用 23 エネルギーの変換と保存 24 原子核のエネルギー 25 放射線の利用と安全 26 エネルギーの利用と課題	動いていない電気と動いている電気について知る。電流と電気抵抗・直列接続と並列接続について学ぶ。電力と電力量を知り、電流が作る磁場について学ぶ。電磁誘導の仕組みから発電機の仕組みについて理解を深める。直流と交流の違いを知る。電磁波とは何かを理解し、どのように利用されているのかを学ぶ。エネルギーの変換とその保存の法則について学ぶ。原子核の構造とそのエネルギーについて学ぶ。放射線の種類や性質について学ぶ。エネルギーがどのように利用され、その課題について学ぶ。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(基礎を付した科目を3科目又は「科学と人間生活」を含む2科目)物理を履修するためには、この科目を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・化学基礎	2単位	2年次	前期	東京書籍 (改定 新編 化学基礎 化 基002-902)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分 2節 物質の構成元素 3節 物質の三態 2章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造 2節 電子配置と周期表	身の回りのものがどのような物質から構成されているかを考える。炎色反応などから物質の構成元素について学ぶ。 原子の大きさや構造について知る。電子配置と周期表について理解し、元素の性質の規則性について知る。	6月5日	8月28日
2	1編 物質の構成 3章 化学結合 1節 イオンとイオン結合 2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	イオンとイオン結合の形成について理解する。分子とは何かを学び、共有結合について理解する。金属の性質や金属結合について学ぶ。化学結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。	6月5日	8月28日
3	2編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量 3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応式の表す量的関係	原子量・分子量・式量のそれぞれが表す値を理解する。物質質量を中心とした量的関係を理解する。モル濃度における溶液の濃度の表し方を理解する。化学反応の表し方や化学反応式を表す量的関係を学ぶ。	6月5日	8月28日
4	2編 物質の変化 2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩の生成 4節 中和滴定	酸と塩基の性質について理解する。水素イオン濃度とpHの関係を知る。酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。また、塩の生成について知る。中和滴定に用いる器具の使い方を学び、実験操作を理解する。	7月31日	8月28日
5	2編 物質の変化 3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤	酸化と還元は常に同時に起こることを知る。酸化剤と還元剤について学ぶ。	7月31日	8月28日
6	2編 物質の変化 3章 酸化還元反応 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	金属の酸化還元反応から金属の反応性の違いを知る。電池の仕組みなどから酸化還元反応の応用について学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア 教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認 視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	視聴日程 学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数 4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所 岡山本校	実施日程 5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態 実験や探究型授業を通して科学的に探究しようとする態度を養う。そのために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期 9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	出題範囲 第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	受査資格 全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
	(5) 評価方法 添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(基礎を付した科目を3科目又は「科学と人間生活」を含む2科目) 化学を履修するためには、この科目を履修する必要がある。 終章 化学が開く世界 については、内容に関連する単元にて適宜取り扱う。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・地学基礎	2単位	2年次	前期	東京書籍 (地基701)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】 (3)地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1.私たちの大地 1-1.大地とその動き 1-2.火山活動と地震	地球の形と大きさ、構造を理解するとともに大地とその動きについて知る。火山噴火の多様性や火成岩について学ぶ。地殻活動と火山活動、地震の関係について理解する。	6月5日	8月28日
2	2.私たちの空と海 2-1.地球の熱収支 2-2.大気と海水の運動	地球大気構造について大気の組成や大気圧などから学ぶ。対流圏、成層圏、中間圏・熱圏などで起こる現象について知り、地球の大気で起こる現象について理解する。	6月5日	8月28日
3	3.私たちの宇宙の誕生 3-1.宇宙の構造と進化	宇宙の誕生と宇宙の姿についてビッグバンと銀河の構造を理解し、学ぶ。太陽系の誕生について太陽と太陽系を構成する惑星は天の川銀河に漂っていた星間物質が集まって誕生したことを理解する。太陽系の特徴や構成、さらに地球の特徴について学ぶ。	6月5日	8月28日
4	4.私たちの地球の歴史 4-1.地層と化石の観察 4-2.古生物の変遷と地球環境	地層の形成について、地層の向きや堆積物の形成のしくみを理解する。地層にみられる化石からわかることを整理し、理解する。地球の形成や初期の地球の様子について理解する。先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代について生物の多様性に着目しながら学ぶ。人類の進化の道筋について理解する。地球環境の変化による生物の変遷について推察する。	7月31日	8月28日
5	5.地球に生きる私たち 5-1.日本の自然の恵みと防災	日本の自然環境の特徴について地理的特徴や地形に着目しながら学ぶ。火山や海など日本の自然の恵みについて知る。気象災害や地震災害、火山災害について知り、災害が起こった際にどのようにすれば被害を減らすことができるか考える力を養う。	7月31日	8月28日
6	5.地球に生きる私たち 5-終1.地球環境の考え方 5-終2.自然環境の変動 5-終3.これからの地球環境	自然現象は、時間と空間のスケールで見ることができていることを理解する。炭素の循環システムとフィードバックのシステムについて学ぶ。自然環境の変化について時間スケールとともに理解する。人間活動が自然環境にもたらす影響について学ぶ。気候変動に関する世界の取組みについて理解する。持続可能な発展のために私たちにできることを考える力を養う。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	実験や探究型授業を通して科学的に探究しようとする態度を養う。そのために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(基礎を付した科目を3科目又は「科学と人間生活」を含む2科目)		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・生物基礎	2単位	1年次	後期	東京書籍「改訂 新編生物基礎」(生基 002-902)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	日常生活や社会との関連を回りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (1)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (2)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1.生物の特徴 1-1.生物の多様性と共通性	生物の多様性について理解し、生物の種と分類・系統について理解を深める。生物のもつ基本的な特徴を理解して、生物の共通性を知る。真核細胞、原核細胞の構造を学習し、細胞の共通性と違いについて理解する。	11月20日	2月5日
2	1.生物の特徴 1-2.生物とエネルギー	ATPが呼吸や光合成などの生体内でエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。酵素の基本的な特徴を理解し、酵素の性質について理解を深める。呼吸と光合成の仕組みについて詳しく学ぶ。	11月20日	2月5日
3	2.遺伝子とそのはたらき 2-1.遺伝情報とDNA	遺伝情報には様々な形質に対応する情報が含まれ、同じ生物間でもわずかな形質の違いが生じることを理解する。DNAの構造にある規則性やDNAの複製と分配について学ぶ。	11月20日	2月5日
4	2.遺伝情報とDNA 2-2.遺伝情報とタンパク質の合成	タンパク質とは何かを理解する。タンパク質と遺伝情報について学ぶ。細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで多様な細胞に分化することを理解する。遺伝子の発現について学ぶ。	1月22日	2月5日
5	3.ヒトの体の調節	体内環境をつくる体液や体内環境を維持する仕組みについて学ぶ。体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見出す。内分泌系による情報伝達を関係するホルモンとともに理解する。血糖濃度を調節する仕組みについて理解する。ヒトは免疫のしくみによって病原体から体を防御していることを理解する。予防接種やワクチンから免疫の応用について学びを深める。アレルギーや自己免疫疾患など免疫とさまざまな疾患について考え、整理する。	1月22日	2月5日
6	4.生物の多様性と生態系	様々な環境に多様な植物が生育していることに気づく。植生の遷移の要因について資料を参考にしながら理解する。遷移とバイオームについて学ぶ。食物網について理解し、生態系における生物の多様性を知る。生態系において生物どうしがかかわりあっていることを知る。生態系と人為的攪乱について知る。生態系の保全にはそれぞれの立場からの努力や協力が必要であることを理解する。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	実験や探求型授業を通して科学的に探求しようとする態度を養う。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(基礎を付した科目を3科目又は「科学と人間生活」を含む2科目)生物を履修するためには、この科目を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
物理	4	3	前期	東京書籍 『物理』(物理701)	なし	7単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけるようにする。 (1)自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 (2)観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、その過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出 期限	添削課題(レポート)最終 提出期限
1	1編 ささまざまな運動 1章 平面内の運動 1節 平面内の運動 2節 放物運動 2章 剛体のつり合い 1節 剛体と力のモーメント	平面内の運動を表す物理量について理解する。平面内の運動における合成速度や相対速度の表し方について学ぶ。水平投射や斜方投射された物体の運動を理解する。剛体がつり合うときの条件や剛体の重心について理解する。	6月5日	8月28日
2	1編 ささまざまな運動 3章 運動量 1節 力積と運動量 2節 運動量の保存 3節 反発係数	力積と運動量の関係について考え直線上市や平面内で運動する物体の運動量について理解する。床や壁に物体が衝突するときの反発係数について学ぶ。物体の衝突においての反発係数と運動量や力学的エネルギーの関係について学ぶ。	6月5日	8月28日
3	1編 ささまざまな運動 4章 円運動 1節 円運動 2節 慣性力 5章 単振動 1節 単振動 2節 ささまざまな単振動 3節 単振動のエネルギー	等速円運動の表し方について理解する。単振動とは何かを学び、単振動の周期の表し方や単振動のエネルギーの表し方について理解する。	6月5日	8月28日
4	1編 ささまざまな運動 6章 万有引力 1節 惑星の運動 1節 万有引力	惑星の運動にどのような規則性があるかを考え、ケプラーの法則について理解する。万有引力の法則について学び、第2宇宙速度について理解する。	6月5日	8月28日
5	1編 ささまざまな運動 7章 気体分子の運動 1節 気体の性質 2節 気体分子の運動と状態方程式 3節 熱力学第1法則と気体の状態変化 4節 熱力学第2法則と熱機関	ボイルシャルルの法則から気体の性質について理解する。理想気体の状態方程式について理解する。熱力学第1法則について学ぶ。気体の温度と熱の関係について理解する。	6月5日	8月28日
6	2編 波 1章 波の伝わり方 1節 波の表し方 2節 波の伝わり方 2章 音 1節 音の性質 2節 ドップラー効果	反射の法則、屈折の法則について学ぶ。ホイヘンスの原理について理解する。波の干渉条件について学ぶ。音の性質を理解する。ドップラー効果について学ぶ。	6月6日	8月28日
7	2編 波 3章 光 1節 光の伝わり方 2節 光の回折と干渉 3節 レンズと鏡	ものの色が見えるしくみについて理解する。光の反射、屈折について理解し、現象を理解する。ヤングの実験とはどのような実験かを知る。回折格子とはどのようなものかを知り、薄膜や空気層による光の干渉条件について学ぶ。	7月31日	8月28日
8	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 1節 静電気 2節 電場(電界) 3節 電位 4節 電場の中の物体 5節 コンデンサー	静電気の現象について考え、クーロンの法則を知る。点電荷がつくる電場について理解し、複数の点電荷がある場合の電場の表し方を理解する。電気力線と電位の定義について学ぶ。点電荷のまわりの電位について知る。電場の中の導体と不導体のようすについて理解する。コンデンサーのはたらきを学ぶ。	7月31日	8月28日
9	3編 電気と磁気 2章 電流 1節 電流 2節 直流回路 3章 電場と磁場 1節 磁場(磁界) 2節 電流がつくる磁場 3節 電流が磁場から受ける力(電磁力) 4節 ローレンツ力	導線の電気抵抗や電流からジュール熱について自由電子の運動の視点から理解する。キルヒホッフの法則について学ぶ。電池の起電力と内部抵抗について知る。ホイートストンブリッジ・コンデンサーを含む回路についても学ぶ。	7月31日	8月28日
10	3編 電気と磁気 4章 電磁誘導と電磁波 1節 電磁誘導 2節 自己誘導と相互誘導 3節 交流 4節 電磁波	磁極や磁力の性質について理解し、磁場の重ね合わせの原理を知る。電流がつくる磁場について学び、電流が磁場から受ける力についても知る。ローレンツ力について学ぶ。	7月31日	8月28日
11	4編 原子 1章 電子と光 1節 電子 2節 光の粒子性 3節 X線 4節 波動性と粒子性	陰極線、波動性を理解する。光の振動数と仕事関数について学ぶ。X線の種類と特徴について理解し、ブラッグの条件について学ぶ。コンプトン効果について理解を深め粒子が波動性を持つことを理解する。量子力学について学ぶ。	7月31日	8月28日
12	4編 原子 2章 原子と原子核 1節 原子の構造 2節 原子核 3節 原子核の崩壊 4節 核反応と核エネルギー 5節 素粒子	ボーアの仮説における量子条件と振動数条件について学ぶ。水素原子のスペクトルについて理解し、原子番号、質量数、原子量について学ぶ。原子核の崩壊から放射性崩壊とは何かを理解する。エネルギーと質量の等価性について学ぶ。核融合や核分裂について理解する。	7月31日	8月28日

項目	回数	詳細内容	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全12回 ※全てのレポートを提出すること		学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(vice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
		利用メディア	成果確認	視聴日録
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など		学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日録	
	7単位時間(※本来の16単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。	
		実施形態		
	実験や探求型授業を通して科学的に探求しようとする態度を養い、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につける。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格	
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。	
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。			
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには物理基礎を履修する必要がある。			

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・化学	4単位	2年次	後期	東京書籍 (化学Vol.1理論編 化学 701 化学Vol.2物質編 化学 702)	なし	7単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
化学的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)化学的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1編 物質の状態 1章 物質の状態 2節 物質の三態 2章 気体・液体間の状態変化 2節 気体の性質 1節 気体 2節 気体の状態方程式	物質の三態や気体・液体間の状態変化について学ぶ。気体の性質や振る舞いを理解し、気体の状態方程式の意味を把握するとともに、基本的な場合についてその式を用いて計算ができるようにする。	11月20日	2月5日
2	1編 物質の状態 3章 溶液の性質 1節 溶解 2節 希薄溶液の性質 3節 コロイド 4章 固体の構造 1節 結晶 2節 金属結晶の構造 3節 イオン結晶の構造 4節 分子結晶と共有結合の結晶	溶解や希薄溶液の性質について学ぶとともに、コロイドの特徴を理解する。さらに、結晶の種類や構造について学び、金属結晶、イオン結晶、分子結晶、および共有結合の結晶の構造や性質を把握できるようにする。	11月20日	2月5日
3	2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光 1節 反応とエンタルピー変化 2節 ヘスの法則 3節 光とエネルギー 2章 電池と電気分解 1節 電池 2節 電気分解	反応に伴うエンタルピー変化について学び、ヘスの法則の意味を理解する。さらに、光とエネルギーの関係について学習し、電池や電気分解の原理を理解して、基本的な計算ができるようにする。	11月20日	2月5日
4	3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 1節 反応の速さ 2節 反応速度を変える条件 3節 反応のしくみ	反応の速さや、それに影響を与える条件について学ぶ。さらに、反応のしくみを理解し、反応速度を求めるための基礎的な計算ができるようにする。	11月20日	2月5日
5	3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡 1節 可逆反応と化学平衡 2節 平衡の移動 3章 水溶液中の化学平衡 1節 電離平衡 2節 塩の水への溶解	化学平衡の概念を学び、平衡の移動について理解する。また、化学平衡における実数の変化や平衡定数の関係を分析し、平衡の移動が系に与える影響を考察する力を養う。	11月20日	2月5日
6	4編 無機物質 1章 周期表と元素 1節 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 1節 水素とその化合物 2節 炭素 3節 酸素とその化合物 4節 ハロゲンとその化合物 5節 窒素とその化合物 6節 窒素・リンとその化合物 7節 炭素・ケイ素とその化合物	周期表と元素の分類を学び、元素の性質や周期的な変化を理解する。さらに、水素や炭素、酸素、ハロゲン、窒素、窒素・リン、炭素・ケイ素とその化合物について学習し、それぞれの性質や反応の特徴を把握する。	11月20日	2月5日
7	4編 無機物質 3章 典型金属元素の単体と化合物 1節 アルカリ金属とその化合物 2節 アルカリ土類金属とその化合物 3節 1, 2族以外の典型金属元素とその化合物	アルカリ金属およびアルカリ土類金属とその化合物の性質や反応について学ぶ。さらに、1, 2族以外の典型金属元素とその化合物の特徴を理解し、金属元素の性質や化合物の生成、反応についての知識を深める。	1月22日	2月5日
8	4編 無機物質 4章 遷移元素の単体と化合物 1節 遷移元素の特徴 2節 遷移元素とその化合物 5章 金属イオンの分離と確認 1節 金属イオンが検出できる反応 2節 金属イオンの系統分離と確認	遷移元素の特徴を学び、遷移元素とその化合物や金属イオンが検出できる反応について理解する。さらに、金属イオンの系統分離と確認を行う力を養う。	1月22日	2月5日
9	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 1節 有機化合物の特徴 2節 有機化合物の構造式の決定 2章 炭化水素 1節 飽和炭化水素 2節 不飽和炭化水素	有機化合物の特徴を知り、有機化合物の構造式の決定について学ぶ。飽和炭化水素と不飽和炭化水素について学び性質などを理解する。	1月22日	2月5日
10	5編 有機化合物 3章 アルコールと関連化合物 1節 アルコールとエーテル 2節 アルデヒドとケトン 3節 カルボン酸 4節 エステル・油脂・セッケン	アルコールとエーテル、アルデヒドとケトン、カルボン酸の性質や反応について学ぶ。さらに、エステル・油脂・セッケンの構造や反応についても学び、理解を深める。	1月22日	2月5日
11	5編 有機化合物 4章 芳香族化合物 1節 芳香族炭化水素 2節 フェノール類と芳香族カルボン酸 3節 芳香族アミンとアゾ化合物 4節 芳香族化合物の分離	芳香族炭化水素の性質や反応について知る。フェノールと芳香族カルボン酸の構造と特徴を理解する。芳香族アミンとアゾ化合物がどのような性質を示すのかを考察する力を養う。さらに、芳香族化合物の分離について理解し、分離手順をまとめて特徴を整理する。	1月22日	2月5日
12	6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か 1節 高分子化合物の分類と特徴 2章 天然高分子化合物 1節 単糖類と二糖類 2節 多糖類 3節 アミノ酸 4節 タンパク質 3章 合成高分子化合物 1節 合成繊維 2節 合成樹脂 3節 ゴム	高分子化合物の分類と特徴について学ぶ。単糖類と二糖類、多糖類について学び、糖の構造や分類について理解する。アミノ酸やタンパク質の性質と反応について知る。合成繊維や合成樹脂とは何かについて理解する。ゴムの利用と種類について学ぶ。	1月22日	2月5日

項目	回数	詳細内容	方法	実用対応
(1) 添削指導(レポート)	全12回 ※全てのレポートを提出すること		学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(バーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	成果確認	視聴日誌
	必要時間数	実施場所		学習期間一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	7単位時間(※本来の16単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校		実施日誌
		実施形態		11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
(4) 単位認定試験	実験や探究型授業を通して科学的に探究しようとする態度を養う。そのために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。			
	2月(後期末) ※年間行事予定で確認すること	第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期最終了時に告知	出席範囲	受審資格
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り)、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する			全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、化学基礎を履修する必要がある。 7編 化学が果たす役割については、内容に関連する単元にて適宜取り扱う。			

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
理科・生物	4単位	3年次	前期	東京書籍「生物」(生物701)	なし	7単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	内容
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1生物の進化 1-1 生命の起源と細胞の進化	共通性と多様性をつなぐ進化について学ぶ。生命の誕生から生物の多様性と地球環境の変化について考える。	6月5日	8月28日
2	1生物の進化 1-2 遺伝子の変化と進化のしくみ	アサガオやショウジョウバエから遺伝的変異と多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖について学ぶ。さらに遺伝子レベルでみる進化や種分化についても知る。	6月5日	8月28日
3	1生物の進化 1-3生物の系統と進化	生物の進化の道筋から生物の系統分類について学ぶ。霊長類の特徴、類人猿とヒトの違いから人類の出現と変遷について理解する。	6月5日	8月28日
4	2生命現象と物質 2-1 細胞と物質	細胞を構成する成分について知る。生体膜のはたらきと構造について学ぶ。エネルギー変換やタンパク質合成などに関わる細胞の構造を理解する。タンパク質の構造について学び、酵素としてはたらくタンパク質について知る。生命現象にタンパク質がどのように関わっているかを考える。	6月5日	8月28日
5	2生命現象と物質 2-2 代謝とエネルギー	呼吸、発酵、光合成について学び、生物がエネルギーを獲得し、利用する仕組みを考える。	6月5日	8月28日
6	3遺伝情報の発現と発生 3-1 遺伝情報とその発現	DNAの構造やDNAの複製について学び、遺伝情報の流れを理解する。さらに、RNAと転写・翻訳のしくみからタンパク質合成について学ぶ。突然変異とDNA多型から遺伝情報の変化について理解する。	7月31日	8月28日
7	3遺伝情報の発現と発生 3-2 発生と遺伝子発現	原核・真核生物の遺伝子発現の調節について学ぶ。選択的遺伝子発現と細胞分化について理解する。動物の発生から胚の細胞の発生運命と遺伝子発現、さらに調節遺伝子の発現について知る。	7月31日	8月28日
8	3遺伝情報の発現と発生 3-3遺伝子を扱う技術	塩基配列を解読する技術や遺伝子組換え技術の利用について学び、遺伝子や細胞を扱う技術の課題を考える力を養う。	7月31日	8月28日
9	4生物の環境応答 4-1 動物の刺激の受容と反応 4-2 動物の行動	刺激の受容から反応への流れについて学ぶ。ニューロンの興奮から興奮の伝導・伝達について知る。視細胞から刺激の受容と感覚を学ぶ。筋肉の構造や筋収縮のコントロールから効果器について知る。動物の行動や刺激の受容と行動学習のしくみについて理解する。	7月31日	8月28日
10	4生物の環境応答 4-3 植物の環境応答	被子植物の生殖と発生、植物の一生の出来事と環境の影響について理解する。植物ホルモンと光受容体について学ぶ。光や温度による発芽の調節・茎や根の成長について考える。気孔の開閉のしくみと環境変化について理解する。花芽形成と環境要因の影響を知る。葉の老化と脱落のしくみについて考える。	7月31日	8月28日
11	5生態と環境 5-1個体群と生物群集	生物の個体数の変動や個体群の構造と成長について学ぶ。群れや縄張りによる個体間の相互作用について学ぶ。さらに生物群集の成り立ちと多種の共存についても知る。	7月31日	8月28日
12	5生態と環境 5-2 生態系の物質生産と物質循環 5-3 生態系と人間生活	生態系全体のエネルギーの流れについて理解する。生産者や森林生態系の物質収支について意味と関係を理解する。絶滅速度について学び、人間は自然とどう付き合っていけばよいか考える。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全12回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア 教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認 視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	視聴日程 学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数 7単位時間(※本来の16単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所 岡山本校	実施日程 6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
		実施形態 実験や探求型授業を通して科学的に探求しようとする態度を養う。科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	
(4) 単位認定試験	実施時期 9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	出題範囲 第1回～第12回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	受査資格 全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、生物基礎を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
音楽I	2	2年次	後期	教育芸術社「高校生の音楽1」(音I 027-902)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	【知識・技能】 音楽の要素や構造、文化的背景について理解するとともに、歌唱・器楽・創作・鑑賞の基礎的な技能を身に付け、音楽で表現できるようにする。
	【思考・判断・表現】 音楽の特徴やよさ、表現意図を感じ取りながら、音楽的な見方・考え方を働かせて、自分なりに表現や鑑賞を深める。 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽活動に主体的・協働的に取り組み、音楽を愛好する心情を育て、生涯にわたって音楽に親しもうとする態度を養う。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	音楽って何だろう? ・楽譜を読む ・リズム ・和音の進行って何? ・人間と音楽の多様な関わり ・音楽を深く味わう	音楽とは何かという問いを出発点として、リズムや和音などの音楽の要素や、楽譜を読むための基礎的な知識(楽典)について理解を深め、音楽の構造や仕組みを学ぶ。あわせて、さまざまな音楽の事例を通して、音楽表現の特徴や成り立ちについて基礎的な理解を養う。	11月20日	2月5日
2	歌唱 ・日本語の歌 ・英語の歌 ・イタリア語の歌 ・ドイツ語の歌 ・フランス語の歌 ・その他の言語の歌	日本語および英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語など多様な言語による歌曲を取り上げ、各言語の発音や言葉の特徴を踏まえた歌唱表現の基礎を学ぶ。あわせて、歌曲の背景や文化的特徴にも触れながら、言葉と音楽の関係を理解し、表現豊かな歌唱につなげる。	11月20日	2月5日
3	器楽/創作 ・ギター ・リコーダー ・和楽器(箏、篠笛、三味線、三線) ・和音の機能	ギターやリコーダー、箏・篠笛・三味線・三線などの和楽器に親しみ、各楽器の特徴や基本的な奏法について理解するとともに、基礎的な演奏技能を身に付ける。あわせて、和音の機能など音楽の構造に関する理解を深め、演奏や簡単な創作活動を通して音楽表現の基礎を学ぶ。	11月20日	2月5日
4	鑑賞① ・西洋音楽	中世から現代までの西洋音楽を中心に、オペラ、交響曲、器楽曲、ミュージカル、ポピュラー音楽など多様な音楽作品を鑑賞する。各時代の音楽の特徴や作曲家の表現意図、文化的背景に着目しながら音楽の構造や表現の工夫を理解し、音楽のよさや価値を多面的に味わう力を養う。また、ジャンルや時代の違いに触れることで、音楽文化の広がりや多様性について理解を深める。	1月22日	2月5日
5	鑑賞② ・世界の諸民族の音楽 ・日本音楽	世界の諸民族の音楽や日本の伝統音楽を鑑賞し、地域や文化によって異なる音楽の特徴や表現の在り方について理解を深める。信仰、物語、祭礼など人間の生活や文化と音楽の関わりに着目しながら、多様な音楽文化の価値や役割について学ぶ。また、日本各地の民俗芸能や民謡などを通して、日本の音楽の特徴や音階、リズム様式について理解を深める。	1月22日	2月5日
6	鑑賞③ ・ポピュラー音楽	ゴスペルやブルース、ジャズ、ロック、ヒップ・ホップなど多様なポピュラー音楽を鑑賞し、それぞれの音楽の成立背景や文化的特徴について理解を深める。リズムやサウンド、表現方法の特徴に着目しながら、ポピュラー音楽の発展やジャンルの広がりについて学び、現代社会における音楽文化の在り方について考える。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態 歌唱および器楽を中心とした実技活動を行う。集団による歌唱や楽器演奏を通して、音楽表現の基礎的な技能を身に付けるとともに、音楽の要素や構造について理解を深める。また、他者と協働して音楽活動に取り組むことを通じて、音楽のよさや楽しさを体験的に学ぶ。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(音楽Iもしくは美術Iどちらかを必ず履修しなければいけない)		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
美術I	2	2年次	後期	高校美術(116-日文・美I-703)	なし	4単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	<p>【知識・技能】 造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表現する力を養う。</p> <p>【思考・判断・表現】 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き等について考えて主題を生成し創造的に発想し構想を練り、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み生涯にわたり美術を愛好する心情を育み、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。</p>
--------------	---

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	創造の扉:バプロ・ピカソ 内面を見つめて 身近な風景を描く 配置と構図で語る 感覚と表現	作品を通して世界平和などの「願いをカタチに」する表現や、作家の意図を鑑賞します。 「ころろ」や「いのち」といった目に見えない概念の視覚化や、無意識の落書きから自己の内面を発見する活動を行います。 時間や光の変化を意識して風景を捉え、その違いを感じ取ってスケッチします。 自分が主人公の物語を想定し、場面に合わせた効果的な背景画の構図を考えます。 自身の感覚をもとに「線」が「面」に変わる瞬間を探究したり、色だけでメッセージを伝える「色の手紙」を色彩構成で表現します。	11月20日	2月5日
2	創造の扉:葛飾北斎 継承と創造 江戸の日常 怪異の生き物たち 過去、現在、未来を見通すアート	多様な視点や技法で自然(水など)を捉える手法を学びます。 過去の作品から美を感じ取り、自己の表現へとつなげていく「文化のリレー(バトンの渡し方)」について鑑賞を深めます。 目に見えないものを表現したり、自分の願いや夢を形にする制作につなげます。	11月20日	2月5日
3	創造の扉:マルセル・デュシャン 描きとめられた記憶 版を用いて表現を深める	現代アートの作品から、作家が社会や自分自身に対してどのような「問い」を立てたのかを考えます。 身近な素材を一度分解して組み合わせ、新たな世界観を作り出す思考(テンカリング)を実践します。 記憶や自分の物語をもとに背景画などを制作します。 自分の身体や内面を写し取り、「私が生きた痕跡」や「私らしさ」を表現します。 紙や粘土を用い、重力やバランスと戦いながら、作品が「自立する(立つ)」ための条件を思考しながら制作します。	11月20日	2月5日
4	創造の扉:アンディ・ウォーホル 連環とミケランジェロ 立体表現の広がり サイエンス×アート テクノロジーで表現をどのように変えるのか? 写真と時間 アニメーションの仕組み 伝達の映像	複製などの技法を用いた表現の広がりや、自画像の制作を通して自己表現を深めます。 フィボナッチ数列や自然界の構造など、理数的な要素をアートに見出す「STEAM教育」の視点を学びます。 写真などのメディアを用いて時間を切り取り、異なる光の風景や自然の摂理を捉えます。 コマ撮りなどで「O(マル)」などの図形に動きを与え、表現に命を吹き込む映像メディア表現を学びます。	1月22日	2月5日
5	デザイン×コミュニケーション 気づきに気づく ポスターで考える タイポグラフィ マークのデザイン 優しさのデザイン 仕組みをデザインする	古代の石盤から現代のスマートフォンまでの変遷を比較し、人類のコミュニケーションの歴史と未来を考えます。 一つのテーマ(りんご等)から、新種発見など拡散的なイメージを生み出すアイデア出しを行います。 文字の書体や色が与える印象を理解し、人を振り向かせるための視覚伝達の構造を学びます。 言語を超えて課題に取り組むための、アイコンやマークの役割を考えます。 「誰のために、何のために」を考え、身近なユーザーのニーズを探って使いやすい道具を提案するデザイン的思考を実践します。 地域や社会の問題をデザインで解決するプロジェクトの仕組みを学びます。	1月22日	2月5日
6	年表 美術史 なぜ人はつくり続けるのか? 西洋の美術史 日本の美術史 近代デザイン史 映像メディア史	日本および諸外国の美術文化の変遷を体系的に理解し、様々な活動に関わる美術史の知識を深め、鑑賞活動や自身の表現の参考にします。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全6回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(バーセナージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	4単位時間(※本来の8単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
	身近な素材を活用した作品制作を通し、用具の扱い方など基本的な制作技法を学ぶとともに、色彩構成力、連続した模様によるデザイン力を養う。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第6回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択必修科目(音楽Iもしくは美術Iどちらかを必ず履修しなければいけない)		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
情報・情報I	2単位	1年次	前期	東京書籍 (新編 情報I 情IO02-901)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。</p> <p>(2)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3)情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1章 情報で問題を解決する 1 情報とメディアの特性 2 問題解決の流れ 3 発想法 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つけない傷つけないために 7 知的財産権 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ	情報とメディアの特性を理解し、問題解決の流れや発想法を学ぶ。さらに、情報モラルや個人情報の流出に関するリスクを理解し、傷つけない傷つけないための適切な情報の扱い方を身に付ける。著作権について学び、情報技術の発展が社会に与える影響や、情報化による私たちの生活の変化について考察する。よりよい情報社会の実現に向けて、適切な情報活用を身に付ける。	6月5日	8月28日
2	2章 情報を伝える 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特徴 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	コミュニケーション手段の変化を学び、ネットコミュニケーションの特徴を理解する。さらに、デジタルの世界における情報の扱い方を学び、数値や文字、音や画像、色や動画のデジタル表現について理解を深める。目的に応じたデジタル化の手法を学習し、情報デザインやユニバーサルデザインの概念を習得する。情報デザインの流れを把握し、効果的な情報の伝達や表現を身に付ける。	6月5日	8月28日
3	3章 コンピュータを活用する 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現 25 プログラムの基本構造1 26 プログラムの基本構造2 27 プログラミングの工夫 28 発展的なプログラム 29 モデル化とシミュレーション 30 シミュレーションの活用	コンピュータの基本的な構造や仕組みを理解し、ソフトウェアの役割や動作原理を学ぶ。さらに、演算の仕組みやコンピュータの限界について考察し、アルゴリズムの表現方法を習得する。プログラムの基本構造を学び、発展的なプログラミングの手法を身に付ける。加えて、モデル化とシミュレーションの概念を理解し、その活用方法を学習することで、実社会の問題解決に応用できる力を養う。	7月31日	8月28日
4	4章 データを活用する 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバーとクライアント 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ 36 データの活用とデータベース 37 様々なデータモデル 38 データの形式 39 データ分析の流れ 40 2つの事柄の関係	ネットワークとインターネットの基本的な仕組みを理解し、サーバーとクライアントの関係やインターネット上のサービスについて学ぶ。さらに、情報セキュリティの重要性を理解し、安全に情報を取り扱う方法を身に付ける。データの形式やデータベースの活用方法を学び、さまざまなデータモデルを理解する。データ分析の流れを把握し、目的に応じた適切なデータの利用や活用について学ぶ。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全4回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の4単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(月)～16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	表計算ソフトを用いて、統計処理を行い、データの分析を行う。また、様々なソフトウェアを活用し、情報と情報技術に触れ、スキルを身に付けることを目的とする。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	第1回～第4回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 5章 活動して提案するについては、内容に関連する単元にて適宜取り扱う。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
家庭基礎	2単位	2年次	前期	東京書籍「家庭基礎」(家基701)	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
生活に関する実践的・体験的な学習を通して、様々な人々と協働しながら、男女が協力して家庭や地域の生活をより良くする力を育成する。 (1)生活に必要な基礎知識と技能を身につける。 (2)生活課題を見つけて解決する力を養う。 (3)地域社会に積極的に参画する実践的な態度を育む。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	「生涯を見通す」「人生をつくる」「子どもと共に育つ」	ライフステージの特徴と課題を理解し、生活における意思決定の重要性を学ぶ。多様な生き方を知り、生涯を見通したライフスタイルを考える力を養う。 家族・家庭と生活の関係や関連法律・制度を理解し、仕事と家庭の両立や地域との関わりを学ぶ。 性と生殖に関する健康を理解し、子どもの発達と生活環境について学ぶ。子育ての課題や社会全体での支援方法を考える。	6月5日	8月28日
2	「超高齢社会を共に生きる」「共に生き、共に支える」「食生活をつくる」	超高齢社会の背景を理解し、高齢者の心身の変化や生きがいについて学ぶ。 多様性を尊重した社会づくりに貢献する姿勢を育む。家族や地域の支援のあり方、高齢者の自立を支える社会の仕組みを理解し、適切に関わる力を養う。 健康的な食生活のために、栄養素の役割と食事の意義を理解する。安全で衛生的な食品の選び方や保存方法を学び、各ライフステージに適した栄養バランスのよい食事を考える。食文化や持続可能性について広い視野を持つ。	6月5日	8月28日
3	「衣生活をつくる」「住生活をつくる」	被服の社会的・文化的背景と機能を理解し、用途に合った着装を実践する。被服の素材や管理方法を科学的に学び、環境に配慮した持続可能な衣生活を実践する力を身につける。 住居の機能とライフステージごとの住要求を理解し、防災や環境性能を学び、安全な住環境を整える力を養う。日本や世界の住文化への理解を深め、持続可能な住生活について考える。	7月31日	8月28日
4	「経済生活を営む」「持続可能な生活を営む」「これからの生活を創造する」	責任ある消費者として、契約の仕組みを理解し適切な消費行動を身につける。消費者保護制度や権利と責任を学び、持続可能な社会に向けた消費のあり方を考える。ライフステージごとの生活設計やリスク管理を学び、社会の担い手として実践する力を養う。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全4回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア 教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	成果確認 視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	視聴日程 学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数 2単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	実施場所 岡山本校	実施日程 5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態 スウェーデン刺しゅうコースターの特徴・技法について理解を深める。		
(4) 単位認定試験	実施時期 9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	出題範囲 第1回～第4回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	受査資格 全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 レポート提出回数は少ないですが、1つのレポートで幅広い内容を取り扱っています。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
体育I	2単位	1年次	前期	大修館書店「現代高等保健体育」	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ」	4時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	体育を通じて、運動・スポーツの知識を深めるとともに、各種スポーツの特徴や効果的な技能習得の仕方について理解する。運動の実践を通じて、公正、協力、責任などの意欲を高め、運動の楽しさを味わうとともに、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	「スポーツの始まりと変遷」、「文化としてのスポーツ」、「オリンピックとパラリンピックの意義」、「陸上」	スポーツの誕生とその世界的普及の背景を学ぶ。単なる身体運動と比較し、スポーツが独自の文化として発展した理由や、多様な関わり方による文化の変容を具体例とともに考察する。また、オリンピズム、オリンピックおよびパラリンピックが持つ普遍的な価値と意義についても理解を深める。	6月5日	8月28日
2	「スポーツが経済に及ぼす効果」、「スポーツの高深さとドーピング」、「スポーツと環境」、「剣道」	スポーツが経済活動や社会に与える影響について、関連業種の事例をもとに経済的意義を学ぶ。また、ドーピングや環境問題など、スポーツの高深さを脅かす要因とその対策についても検討する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全2回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	4月13日(月)～16日(木)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
(4) 単位認定試験	実施形態		
	様々なスポーツに触れながら、運動の特性を理解し、基本的な技能を修得する。運動を各自が課題を持って取り組み、運動の楽しさや達成感を味わう。自ら運動に親しむ能力を高め、卒業後も運動やスポーツを継続することができるようにする。		
(5) 評価方法	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第2回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(6) 特記事項・履修上の注意	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
	必修科目 体育I、II、IIIではすべて同じ教科書を使用します。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
体育Ⅱ	2単位	2年次	前期	大修館書店「現代高等保健体育」	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ」	4時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	体育を通じて、運動・スポーツの知識を深めるとともに、各種スポーツの特徴や効果的な技能習得の仕方について理解する。運動の実践を通じて、公正、協力、責任などの意欲を高め、運動の楽しさを味わうとともに、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	「スポーツにおける技能と体力」、「スポーツにおける技術と戦術」、「技能の上達過程と練習」、「マット運動」	技能と体力の関係について学ぶ。技能や体力を高める際に気をつけるべき点を挙げ、技能の型の違いや、それぞれの練習方法について説明することができることを目指す。用具の改良やメディアの発達により、技術や戦術、ルールがどのように変化してきたかを学び、技能がどのようなステップを経て上達するか、練習によって技能が上達すると見られる特徴について理解する。	6月5日	8月28日
2	「効果的な動きのメカニズム」、「体カトレーニング」、「運動やスポーツでの安全の確保」、「バスケットボール」	体の動きがどのような仕組みで開始され、持続されるかを学ぶ。よい動きを支える調整力、目的に応じたさまざまなトレーニング方法を学ぶ。筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法を理解する。スポーツ外傷とスポーツ障害の違いや、スポーツ活動中に起きる重大な事故の発生原因と予防方法を理解する。	7月31日	8月28日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全2回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間(※本来の2単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
様々なスポーツに触れながら、運動の特性を理解し、基本的な技能を修得する。 運動を各自が課題を持って取り組み、運動の楽しさや達成感を味わう。 自ら運動に親しむ能力を高め、卒業後も運動やスポーツを継続することができるようにする。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第2回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 この科目を履修するためには、体育Ⅰを履修する必要がある。 体育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲではすべて同じ教科書を使用します。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
体育Ⅲ	3単位	3年次	後期	大修館書店「現代高等保健体育」	大修館書店「ステップアップ高校スポーツ」	6時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	体育を通じて、運動・スポーツの知識を深めるとともに、各種スポーツの特徴や効果的な技能習得の仕方について理解する。運動の実践を通じて、公正、協力、責任などの意欲を高め、運動の楽しさを味わうとともに、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	「生涯スポーツの見方・考え方」、「球技(卓球)」	社会の変化に伴い、スポーツの役割がどのように変化してきたのかを学び、各ライフステージに合わせたスポーツの楽しみ方について理解する。	11月20日	2月5日
2	「ライフスタイルに応じたスポーツ」、「ソフトボール」	「する」スポーツライフスタイルについて具体例を通じて学び、自身のスポーツライフの諸条件を整理した上で、今後の豊かなスポーツライフを実現するための条件や工夫の方法を理解する。	1月22日	2月5日
3	「スポーツを推進する取り組み」、「豊かなスポーツライフの創造」、「水泳」	国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを知り、自身が住む身近な地域で行われているスポーツ推進の事例を通じて、これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解する。さらに、豊かなスポーツライフを創造するための課題について具体例を挙げながら考察する。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全3回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	3単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	10月13日(火)～16日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
(4) 単位認定試験	実施形態		
	様々なスポーツに触れながら、運動の特性を理解し、基本的な技能を修得する。 運動を各自が課題を持って取り組み、運動の楽しさや達成感を味わう。 自ら運動に親しむ能力を高め、卒業後も運動やスポーツを継続することができるようにする。		
(5) 評価方法	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第3回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(6) 特記事項・履修上の注意	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
	必修科目 この科目を履修するためには、体育Ⅱを履修する必要がある。 体育Ⅰ、Ⅱ、Ⅲではすべて同じ教科書を使用します。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
保健I	1単位	1年次	後期	大修館書店「現代高等保健体育」	なし	1時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	健康の考え方と成り立ち,私たちの健康のすがた,生活習慣病の予防と回復,がんの原因と予防・治療と回復,運動・食事と健康,休養・睡眠と健康	健康の考え方の変化について学び、健康を保持増進するために、いろいろな観点から知識を得る。	11月20日	2月5日
2	喫煙と健康,飲酒と健康,薬物乱用と健康,精神疾患の特徴と予防,精神疾患からの回復,現代の感染症,感染症の予防,性感染症・エイズとその予防	飲酒や喫煙、薬物乱用が心身に及ぼす影響について説明できるようにする。心身の適応能力を高める方法について学ぶ。	1月22日	2月5日
3	健康に関する意思決定・行動選択,健康に関する環境づくり,事故の現状と発生要因,安全な社会の形成,交通における安全,応急手当の意義とその基本,日常的な応急手当,心肺蘇生法	健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について説明できるように学習する。交通事故の危険性をや、社会環境の健康への影響や交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について説明できる。また、応急手当の方法と手順について説明できる力を養う。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全3回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	3単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態		
生涯を通して健康に過ごせるように、個人及び社会生活における健康・安全について学習する。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第3回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 保健I、保健IIではすべて同じ教科書を使用します。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
保健Ⅱ	1単位	2年次	後期	大修館書店「現代高等保健体育」	なし	1時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 (2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を身に付ける。

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	ライフステージと健康,思春期と健康,性意識と性行動の選択,妊娠・出産と健康,避妊法と人工妊娠中絶,結婚生活と健康,中高年期と健康	心と体は、年齢とともに変化する中で、健康のために私たちが社会がすべきことも、それにもなって変化する。思春期から中高年期までの健康にかかわることがらについて学ぶとともに、我々の健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用のしかたなどについて理解する。	11月20日	2月5日
2	働くことと健康,労働災害と健康,健康的な職業生活,大気汚染と健康,水質汚濁、土壌汚染と健康,環境と健康にかかわる対策,ごみの処理と上下水道の整備	私たちが健康に生きていく上では、我々を取り巻く自然環境やそれを良好に維持するしくみ、また社会の制度や活動について理解する。	1月22日	2月5日
3	食品の安全性,食品衛生にかかわる活動,保健サービスとその活用,医療サービスとその活用,医療品の制度とその活用,さまざまな保健活動や社会的対策,健康に関する環境づくりと社会参加	健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係・医療の仕組みについて学ぶ。	1月22日	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全3回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	教科書準拠インターネット講座、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	3単位時間(※本来の3単位時間のうち、メディア学習により6割を上限に免除)	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること。
	実施形態 生涯を通して健康に過ごせるように、個人及び社会生活における健康・安全について学習する。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末)※年間行事予定で確認すること	第1回～第3回レポートの内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること。
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 この科目を履修するためには、保健Ⅰを履修する必要がある。 保健Ⅰ、保健Ⅱではすべて同じ教科書を使用します。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・数理科学探究I	2単位	2年次	前期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	<p>確率統計及び微分積分に関する基礎的な概念や考え方を理解するとともに、それらを相互に関連付けて考察する活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目標とする。また、数学を用いて主体的に探究する態度及び数学的思考力の育成を図る。</p> <p>(1) 事象の不確実性やデータの傾向を数量的に捉えるための概念の理解を深め、現象を論理的に考察する力を養う。</p> <p>(2) 変化や累積に着目し、多角的な視野から考察することで、微分積分の概念理解につなげ、数学的な思考の手段を拡張する。</p> <p>(3) 確率統計と微分積分に共通する考え方に着目し、両分野を統合的に扱うことにより、複数の視点から事象を捉え、考察する力を育成する。</p>
--------------	---

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1 確率の基礎とその実世界への応用 1-1 期待値 1-2 因果関係 1-3 未来の確率	確率の基本的概念の理解と意思決定への応用を学ぶ。確率と頻度の違い、認知バイアス、確率分布の理解を深め、データの扱い方と応用を探る。	7月31日	8月28日
2	2 ベイズ統計からAIへの応用と実践 2-1 ベイズの定理 2-2 ベイズ推定とモデル 2-3 マーケティング	ベイズの定理とその応用を学ぶ。医療やテスト成績、実生活の事例におけるベイズ推定の利用を理解し、AIやマーケティングへの応用について探究する。		
3	3 微分積分入門:基礎から応用まで 3-1 微分と積分 3-2 積分 3-3 未来予測	微分積分学の基礎を理解し、極限について考え変化を分析する力を身に付ける。矛盾と未来予測への応用を通じて、数学的思考を深める。		
4	4 微分積分の深化:歴史から世界へ 4-1 微分 4-2 微分と積分の関係 4-3 集合論	微分と積分の関係性を理解し、理論の実世界への応用を学ぶ。歴史的発展と数学的世界観を探究し、抽象的な概念を具現化する。		

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	映像授業, 同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認, 授業への出席, 確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し, レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	5月19日(火)~22日(金)など 詳細は, 年間行事予定を確認すること
	実施形態		
微分積分および確率統計の考え方をういて社会的事象を分析・考察し, グループワークを通して傾向の把握や改善案の提案を行う。			
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業, 面接指導の内容 ※詳細は, 学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点), 面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り)), 単位認定試験(得点)などを総合的に判断し, 観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 数理科学探究IIを履修するためには, この科目を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・数理科学探究II	2単位	3年次	前期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	学習の目標
・ゲーム理論の基本原則の習得: アダム・スミスの「見えざる手」からジョン・フォン・ノイマン、ジョン・ナッシュらによるゲーム理論の基本概念(戦略形、展開形、提携形)を理解し、日常の意思決定が戦略的状況下にあることを認識する。 ・戦略的状況の分析: 「囚人のジレンマ」や価格競争などの非協力ゲームの事例研究を通して、「パレート最適」と「ナッシュ均衡」という二つの主要な均衡概念を明確に区別し、合理的な意思決定の結果を予測する力を養う。 ・情報と行動のロジックの理解: 完全情報、不完全情報、情報完備、情報不完備といった情報の種類を理解し、「ベイジアンゲーム」による情報不完備な状況の分析手法を学ぶ。特に「情報の非対称性」が引き起こす「逆選抜」といった社会経済現象を理解する。 ・実践的な戦略思考の確立: 日常生活やビジネスにおける多様な戦略的環境において、「シグナリング」「スクリーニング」「コミットメント」「ロックイン」といった概念を応用し、合理的かつ効果的な戦略的思考を意図的に実行できる能力を確立する。 ・学際的な視点の獲得: ゲーム理論が経済学のみならず、行動経済学、進化ゲーム理論、社会学、政治学など幅広い分野でどのように応用され、革新的な貢献をしているかを理解し、多角的な視点から物事を考察する基礎を築く。	

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	ゲーム理論の基礎と革新的な力	ゲーム理論の基本的な概念(見えざる手、ゲームの種類、戦略形・展開形・提携形)を理解する。ゲーム理論の発展経緯と経済学・他分野(行動経済学、進化ゲーム理論、各種応用分野)への貢献について学ぶ。オンライン対話学習1を実施する。	7月31日	8月28日
2	協力と非協力の分析と交渉ゲーム	非協力ゲームの事例研究(価格設定、囚人のジレンマ)を通じた展開形と戦略形の理解。「パレート最適」と「ナッシュ均衡」の二つの重要な均衡概念を学習する。交渉ゲームにおける非協力から協力への移行、ナッシュ交渉解、混合戦略、ミニマクス定理の理解を深める。オンライン対話学習2を実施する。		
3	情報と戦略のロジック	ゲームにおける情報の種類(完全情報/不完全情報、情報完備/情報不完備)と、完全情報ゲームの必勝法である「ツェルメロの定理」について学ぶ。情報不完備ゲームの「ベイジアンゲーム」(ハルサニ変換、ベイジアンナッシュ均衡)を学習し、レモン市場の研究を通して「情報の非対称性」「逆選抜」「シグナリング」「スクリーニング」といった概念を理解する。オンライン対話学習3を実施する。		
4	戦略的思考とコミットメントの論理	日常の事例を通じた「戦略的思考」の定義と重要性を理解する。「ブラックスワン理論」を学習し、予測の限界と極限状況における協力ゲームの戦略について考察する。コミットメントの論理(自己拘束、他者拘束)を学び、「シグナリング」「スクリーニング」「逆選抜」「モラルハザード」「ロックイン」といった概念とその応用について考察する。オンライン対話学習4を実施する。		

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	6月23日(火)~26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	ワークショップを通じて、戦略思考を学ぶ。戦争はなぜ起こるのかを考え、ゲーム理論を使って結論を導き、自分の意見をまとめる。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業、面接指導の内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、数理科学探究 I を履修している必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・哲学探究I	2単位	2年次	前期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	<p>【価値観】人(主体)の認識の対象となるコトやモノ(客体)は、常になんらかの価値を伴う。たとえば美醜は「審美的価値」であり、利害は「経済的価値」、善悪は「道徳的価値」となる。この主体と客体の関係によって成り立つものこそ「価値観」であることを認識し、「価値」の可変性と「価値観」の多様性から、人間に対する深い理解を探るのが本講座の目的である。</p> <p>【懐疑】哲学的思考のスタート地点である「懐疑」の意味を知り実践する。特に意識することなく常識として流してしまうことの中にも懐疑の余地が大きいことを知る。</p>
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	【価値観】 1. 「価値」とは何か？ 2. 「真理」と「価値」 3. 「発見」と「創造」	「価値」が主体と対象の関係性の上に成り立っていることを学び、不変的な事実と可変的な事実を通して「価値」への理解を深める。また価値創造について探究する。	7月31日	8月28日
	【懐疑】 1. らしさの正体 2. 好みの本質 3. 性別の二面性	女性赤・男性青などのイメージの浸透について、その背景などを考察し、社会によってつくられている性別イメージについての意識を対話を通じて探究する。		
2	【価値観】 4. 「価値」の道徳性 5. 「創造性」と「独創性」 6. 「事実」と「真実」	個人の欲望と目的の優先順位を基に、価値のとらえ方・感じ方が変わることを理解する。新しい価値の創造や「独創」の定義について深く探究する。		
	【懐疑】 4. 哲学と常識 5. 哲学者の挑戦 6. 社会と哲学	「常識」とは何かということ、哲学者の考えを基に考察し、知識を得ることにおける哲学的思考の大切さについて学ぶ。		
3	【価値観】 9. 「好悪」と「損得」 10. 「善悪」と「正邪」 11. 「認識」と「評価」	価値の評価主体の変化と視点の移動について学び、主観的価値と客観的価値に焦点を当てて探究する。		
	【懐疑】 9. 読書と国語 10. 国語力と読解力 11. 読書の本質	「読書」と「国語」にまつわる一般的な常識の真偽について吟味し、読者や言葉が施行に与える影響や読書の本質について探究する。		
4	【価値観】 12. 「評価」と「評価主体」の関係 13. 抽象的な「価値」 14. 「発見」と「創造」	価値の次元について考え、モノを評価する時とヒトを評価する時の価値判断の違いなどを考察する。		
	【懐疑】 12. 私たちが見ているもの 13. 心の所在 14. 本質と相対	ものを認識することにおいて、哲学者の思考に触れながら考察する。心と意識の関係、言葉に隠された本質などを探ることで、哲学者の思考の流れを概観する。		

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	5月19日(火)～22日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	【価値観】ワークショップやグループディスカッションなどを通じて「価値」の変動を体感的に学ぶ。 【懐疑】ワークショップやディスカッションなどを通して、命などに対する「常識」を一度疑い、深く考察する体験を行う。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	9月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業、面接指導の内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 哲学探究Ⅱを履修するためには、この科目を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・哲学探究Ⅱ	2単位	3年次	前期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	人と動物の自由の違いや、自由に選ぶ心と決まった運命、個人の自由とみんなの自由、自由を実現する方法とその制限、権力の正しさ、学校や社会での自由、自由が持ついろいろな意味、人の欲望と自由、自由と正義のつながり、お互いを認め合う自由、勉強と自由の関係を理解し、自由に関する難しい問題をよく考える力をつける。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1. 「自由」への導入 2. 自由意志 3. 自由と公共	「自由」とは何か、動物との比較や昔の日本との比較を通じて考察する。哲学者の思考を基に、自由意志の存在について学び、個人の自由が制限される場合に必要なものを検討する。	7月31日	8月28日
2	4. 自由の実現① 5. 自由の実現② 6. 自由の変形	人間が「不自由」と感じる背景を考察する。社会における自由という観点で、正当性のある国家とは何かを考え、学校社会における自由についても対話を通じて学ぶ。		
3	9. 自由の定義① 10. 自由の定義② 11. 自由の変形	「自由」の本質とは何か、哲学者の思考を基に考察していく。未成年の自由が制限される状況について事例を交えて考察する。		
4	12. 自由と正義 13. 自由の実現③ 14. 未来への自由	社会において個人の自由がぶつかり合う事例を考え、自由の相互承認という捉え方について深く学ぶ。「勉強」と自由の関係性について対話を通じて考察する。		

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	6月23日(火)～26日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	ワークショップやディスカッションを通じて、表現の自由など身近にある「自由」にまつわる問題について考察する。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(前期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業、面接指導の内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、哲学探究Ⅰを履修している必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・経済探究I	2単位	1年次	後期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	「お金」の本質について多角的な視点で分析し、その【正体】を理解することを目標とする。また、その視点を通じてお金の使い方やお金の役割についての認識を深める。
-------	---

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1. お金の日常 2. お金の起源 3. お金の可能性	現金の代わりになるものと考え、価値データの尺度について学ぶ。お金の歴史を概観し、どのような流れで現在の形になっているかを学び、通貨の形がいかにか変化していくかを考察する。	11月20日	2月5日
2	4. お金の魔術 5. お金の限界 6. お金の勘違い	価値(財)とお金の関係性について考え、ものがないのにお金がある状態やお金がありすぎる状態などを想定し考察する。損得の感じ方など、お金にまつわる勘違いや思い込みを知る。		
3	9. お金の特性 10. お金の外形 11. お金の使い方	お金の役割「増殖」について「信用創造」という現象について学ぶ。借金をする時に必要となる「信用」に焦点を当て、お金の本質について考察する。これらの知識をふまえ、消費と浪費、個人と国家がお金を集める時の違いを考える。		
4	12. お金の役割 13. お金の威力 14. お金の稼ぎ方	「価値」を基準にお金にはたす役割について学び、価値の変化や、価値とお金の関係について考察する。		

項目	詳細内容		
	回数	方法	質問対応
(1) 添削指導(レポート)	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
	利用メディア	成果確認	視聴日程
(2) メディア学習	映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
	必要時間数	実施場所	実施日程
(3) 面接指導	2単位時間	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	交換能など「お金の本質」について、ワークショップやディスカッションを通じて理解する。		
	実施時期	出題範囲	受査資格
(4) 単位認定試験	2月(後期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業、面接指導の内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目 経済探究Ⅱを履修するためには、この科目を履修する必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
教養探究・経済探究Ⅱ	2単位	2年次	後期	なし	なし	2単位時間

学習の目標	より豊かで賢明に暮らしていくために、すべての人が避けて通れないお金にまつわる判断について、知恵と知識の使い方を検討し、明確なヒントや指針の提案によって、独自の「比較判断の法則」を形成する。
--------------	--

回	単元名(教科書区分)	学習内容・指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	1. 宝くじの論理 2. 保険の論理 3. 非対称な立場	宝くじを題材に数字や確率のからくりを体感しながら学ぶ。賭けの要素がからむ保険の仕組みを学び、駆け引きの際の情報量の違いによって起こることを考察する。	11月20日	2月5日
2	4. 権利と義務 5. 通貨か税金か 6. 格差の調整	権利と義務の関係を考察し、契約の本質に迫る。国家を運営するための税金について考え、社会における「格差」のあり方について考える。		
3	9. 予測の根拠 10. 模倣の心理 11. 取引の罫	物事を予測する際の「根拠」について改めて考察する。「人と同じ行動」をとることの意味を考え、投資などに及ぼす影響を知る。それらの知識を踏まえ、取引時に潜む「罫」について対話を通じて考える。		
4	12. 原始感情と先進感情 13. 限界効用の本質 14. 最適と均衡	人間の行動科学をもとに、感情が行動に及ぼす影響について学ぶ。満足感や幸福感が経済面でどのように影響しているかを考察。「望ましい社会状態」について考えていく。		

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回 ※全てのレポートを提出すること	学習管理システム(Google classroom)を通じた課題提出および添削返却	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応
(2) メディア学習	利用メディア	成果確認	視聴日程
	映像授業、同時双方向授業(Google Meet等)	視聴ログ(パーセンテージ)の確認、授業への出席、確認テストの実施など	学習期限一覧(別紙)を参照し、レポートとの進捗に合わせて計画的に進めること
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	11月10日(火)～13日(金)など 詳細は、年間行事予定を確認すること
	実施形態		
	「取引と駆け引き」という学びの視点を活かして、実例などを基にディスカッションやグループワークを実施する。		
(4) 単位認定試験	実施時期	出題範囲	受査資格
	2月(後期末) ※年間行事予定で確認すること	レポートおよび映像・同時双方向対話授業、面接指導の内容 ※詳細は、学習期限終了時に告知	全てのレポート提出および面接指導の出席要件を満たしていること
(5) 評価方法	添削課題(全レポートの得点)、面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))、単位認定試験(得点)などを総合的に判断し、観点別評価によって5段階で評定する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	選択科目 この科目を履修するためには、経済探究Ⅰを履修している必要がある。		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
総合的な探究の時間I	1単位	1年次	後期	なし	クエストエデュケーション 「ソーシャルチェンジ」 (教育と探求社)	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、身近な地域・社会や自身の興味関心をもとに課題を設定し、情報収集・整理・分析・表現の一連のプロセスを経験する。</p> <p>(1) 知識・技能 探究プロセス(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)の基礎を理解し、問いを立て、適切に情報を扱う力を身に付ける。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 収集した情報を根拠に考察し、自分の考えを発表・文章・資料で分かりやすく表現する。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 正解のない問いに試行錯誤しながら取り組み、他者と協働して学ぼうとする態度を養う。探究を通して自己理解と将来への関心を深める。</p>
--------------	---

回	学習内容	指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	<p>① 探究活動の目的や全体の流れを理解し、身近な困りごとや社会の課題に目を向けながら問いを設定する。対話を通してアイデアを出し合い、企画の方向性を具体化する。</p> <p>② 当事者の立場や背景を想像しながら課題を多面的に捉え、具体的な解決策を検討する。他者の意見や事例を参考にしながら企画を見直し、内容をより実現可能な形へと改善する。</p> <p>③ 企画の目的や伝えたい内容を整理し、聞き手を意識したプレゼンテーションを作成・実施する。活動全体を振り返り、自身の成長や課題を言語化し、次の学びへとつなげる。</p>	<p>① 探究活動の意義やプロセスを明確に示し、課題設定や発想を深めるための問いかけを行うとともに、安心して意見交換ができる学習環境を整える。</p> <p>② 多様な視点やチェンジメーカーの事例を提示し、対話や相互フィードバックを通して考えを深めさせる。企画の実現可能性や具体性を高めるための助言を行う。</p> <p>③ 伝わる構成や表現方法について具体的に指導し、発表後には振り返りの観点を示して自己の学びを整理させる。探究のプロセスを再確認し、次年度の学習へ接続できるよう支援する。</p>	12/8(火)～11(金) (面接指導時)	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回	学習管理システム(Google classroom)や発表を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	12月8日(火)～11日(金)
	実施形態		
	自己や社会の身近な課題に対して、対話活動や企画立案、プレゼンテーション活動(個人ワークおよびグループワーク)を通して探究する。多様な立場や当事者の視点を踏まえて課題を捉え、解決策を構想・改善する過程を通して、社会への関心を深めるとともに、自らの考えを論理的かつ主体的に他者へ伝える力を身につける。		
(5) 評価方法	添削指導における成果物(発表資料など)・面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))での取組状況を総合的に判断し、評価する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
総合的な探究の時間I	1単位	2年次	後期	なし	クエストエデュケーション 「コーポレートアクセス」 (教育と探求社)	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、身近な地域・社会や自身の興味関心をもとに課題を設定し、情報収集・整理・分析・表現の一連のプロセスを経験する。</p> <p>(1) 知識・技能 探究プロセス(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)の基礎を理解し、問いを立て、適切に情報を扱う力を身に付ける。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 収集した情報を根拠に考察し、自分の考えを発表・文章・資料で分かりやすく表現する。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 正解のない問いに試行錯誤しながら取り組み、他者と協働して学ぼうとする態度を養う。探究を通して自己理解と将来への関心を深める。</p>

回	学習内容	指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	<p>① 企業理解と問いの設定 ・実在する企業の理念や事業内容を調査し、企業が社会や顧客にどんな価値を提供しているかを理解する。 ・企業から出されたミッション(問い)を読み解き、チームで問いの本質を設定する。</p> <p>② 企業活動の調査と課題分析 ・アンケート調査・フィールドワーク・企業人との対話などを通じて、課題に関わる情報を収集する。 ・収集した情報を整理・分析し、解決策の方向性を探る。</p> <p>③ 解決策の検討と発信 ・チームでアイデアを構想・検討し、企画案を作成する。 ・プレゼンテーション資料を作成し、企業人やクラスメイトの前で発表・フィードバックを受ける。</p>	<p>① 企業理解と問いの設定 ・実在する企業の理念や事業内容を調査し、企業が社会や顧客にどんな価値を提供しているかを理解する。 ・企業から出されたミッション(問い)を読み解き、チームで問いの本質を設定する。</p> <p>② 企業活動の調査と課題分析 ・アンケート調査・フィールドワーク・企業人との対話などを通じて、課題に関わる情報を収集する。 ・収集した情報を整理・分析し、解決策の方向性を探る。</p> <p>③ 解決策の検討と発信 ・チームでアイデアを構想・検討し、企画案を作成する。 ・プレゼンテーション資料を作成し、企業人やクラスメイトの前で発表・フィードバックを受ける。</p>	11/10(火)~13(金) (面接指導時)	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回	学習管理システム(Google classroom)や発表を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(3) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	11月10日(火)~13日(金)
	実施形態		
	企業活動や社会の経済的役割に関する課題に対して、企業研究やミッションへの企画提案活動(個人ワークおよびグループワーク)を通して探究する。実在企業の理念や事業内容を踏まえながら課題の本質を捉え、対話的・協働的な学びを通して思考を深めるとともに、社会や働くことへの理解を広げ、自らの考えを論理的かつ説得力をもって他者に伝える力を身につける。		
(5) 評価方法	添削指導における成果物(発表資料など)・面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))での取組状況を総合的に判断し、評価する。		
(6) 特記事項・履修上の注意	必修科目		

教科・科目	単位数	対象年次	開講時期	使用教科書	副教材	面接指導時間
総合的な探究の時間I	1単位	3年次	後期	なし	なし	2単位時間

※面接指導時間は、減免措置を適用した時間数となっている。

学習の目標	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、身近な地域・社会や自身の興味関心をもとに課題を設定し、情報収集・整理・分析・表現の一連のプロセスを経験する。</p> <p>(1) 知識・技能 探究プロセス(課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現)の基礎を理解し、問いを立て、適切に情報を扱う力を身に付ける。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 収集した情報を根拠に考察し、自分の考えを発表・文章・資料で分かりやすく表現する。</p> <p>(3) 主体的に学習に取り組む態度 正解のない問いに試行錯誤しながら取り組み、他者と協働して学ぼうとする態度を養う。探究を通して自己理解と将来への関心を深める。</p>
--------------	---

回	学習内容	指導項目	添削課題(レポート)提出期限	添削課題(レポート)最終提出期限
1	<p>1. 対話による自己理解と価値観の確立 他者との「哲学的対話(相互インタビュー)」を通じて、過去の経験や感情の起伏を振り返り、自身の思考や行動の根底にある価値観(軸)を言語化する。</p> <p>2. ICTを用いた自己表現と相互評価 3年間の探究活動や高校生活の軌跡を、映像編集ツール等を用いて可視化・作品化する。 制作した成果物を他者と共有・鑑賞し合うことで、自身の成長を客観的に捉え直し、進路に向けた自己効力感を高める。</p>	<p>(1) 傾聴と対話の指導批判的思考(クリティカルシンキング)に基づく対話手法を用い、表面的な事象の奥にある本質的な動機を探る姿勢や、他者の多様な価値観を受容する態度を養う。</p> <p>(2) 情報の編集・発信能力の育成自身のキャリアストーリーを第三者に効果的に伝えるための構成力や、ICT機器を活用した創造的な表現技術(クリエイティビティ)を指導する。</p> <p>(3) メタ認知によるキャリア形成支援活動全体の振り返り(リフレクション)を通じ、自己の変容や強みを自覚させ、主体的な進路選択へと接続させる。</p>	10月16日 (面接指導時)	2月5日

項目	詳細内容		
(1) 添削指導(レポート)	回数	方法	質問対応
	全1回	学習管理システム(Google classroom)や発表を通じた課題提出および添削返却。	バーチャルキャンパス(ovice)およびGoogle Classroomにて随時対応。
(2) 面接指導	必要時間数	実施場所	実施日程
	2単位時間	岡山本校	10月13日(火)～16日(金)
	実施形態		
	自己の在り方生き方や進路に関する課題に対して、哲学対話や制作活動(個人ワークやグループワーク)を通して探究する。対話的・創造的な学びを通して、自己理解を深めるとともに、自身のキャリアを論理的かつ表現豊かに他者へ伝える力を身につける。		
(3) 評価方法	添削指導における成果物(発表資料など)・面接指導(規定時間の出席・授業での成果(振り返り))での取組状況を総合的に判断し、評価する。		
(4) 特記事項・履修上の注意	必修科目		